

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年8月26日

【事業年度】 第79期(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)

【会社名】 宝印刷株式会社

【英訳名】 TAKARA PRINTING CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 堆 誠一郎

【本店の所在の場所】 東京都豊島区高田三丁目28番8号

【電話番号】 03(3971)3101(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長兼情報企画部担当 若松 宏明

【最寄りの連絡場所】 東京都豊島区高田三丁目28番8号

【電話番号】 03(3971)3101(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長兼情報企画部担当 若松 宏明

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第75期	第76期	第77期	第78期	第79期
決算年月		平成24年 5月	平成25年 5月	平成26年 5月	平成27年 5月	平成28年 5月
売上高	(千円)	11,115,133	11,426,432	12,645,680	13,469,997	14,669,527
経常利益	(千円)	641,876	829,608	1,465,948	1,026,202	1,727,241
親会社株主に帰属する 当期純利益	(千円)	249,562	460,760	869,557	578,771	1,084,220
包括利益	(千円)	226,633	806,769	1,014,381	1,193,591	607,754
純資産額	(千円)	11,727,440	12,392,242	13,532,772	13,859,466	12,692,137
総資産額	(千円)	14,109,619	15,386,936	16,886,893	17,351,574	18,096,898
1株当たり純資産額	(円)	1,002.04	1,048.11	1,136.47	1,212.20	1,112.68
1株当たり当期純利益金額	(円)	21.40	39.51	74.56	50.15	96.99
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	82.8	79.4	78.5	78.1	68.7
自己資本利益率	(%)	2.1	3.9	6.8	4.3	8.3
株価収益率	(倍)	26.4	17.9	9.9	23.9	13.9
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	916,585	1,034,081	1,092,925	1,083,522	1,977,652
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	141,078	555,687	385,696	628,355	312,319
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	351,880	331,391	337,075	790,176	560,581
現金及び現金同等物 の期末残高	(千円)	4,502,804	5,038,190	5,408,343	5,073,333	6,178,085
従業員数 〔外、平均臨時雇用者数〕	(名)	688 〔71〕	685 〔68〕	676 〔146〕	688 〔132〕	702 〔102〕

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 平均臨時雇用者数は、派遣社員、パートタイマー及びアルバイトの臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
4. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、当連結会計年度より、「当期純利益」を「親会社株主に帰属する当期純利益」としております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第75期	第76期	第77期	第78期	第79期
決算年月	平成24年 5 月	平成25年 5 月	平成26年 5 月	平成27年 5 月	平成28年 5 月
売上高 (千円)	11,087,584	11,401,622	12,436,645	13,326,196	14,543,596
経常利益 (千円)	593,588	750,277	1,208,138	938,031	1,779,676
当期純利益 (千円)	210,517	404,235	742,540	544,148	1,132,531
資本金 (千円)	2,049,318	2,049,318	2,049,318	2,049,318	2,049,318
発行済株式総数 (株)	12,936,793	12,936,793	12,936,793	12,936,793	12,936,793
純資産額 (千円)	11,657,665	12,138,226	12,681,450	12,670,764	13,101,319
総資産額 (千円)	14,062,784	14,848,899	16,171,665	16,167,898	17,046,791
1株当たり純資産額 (円)	999.51	1,040.73	1,087.35	1,133.47	1,172.04
1株当たり配当額 (内、1株当たり 中間配当額) (円)	24.00 (12.00)	20.00 (10.00)	24.00 (10.00)	35.00 (10.00)	50.00 (25.00)
1株当たり当期純利益金額 (円)	18.05	34.66	63.67	47.15	101.31
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	82.9	81.7	78.4	78.4	76.9
自己資本利益率 (%)	1.8	3.4	6.0	4.3	8.8
株価収益率 (倍)	31.3	20.5	11.6	25.5	13.3
配当性向 (%)	133.0	57.7	37.7	74.2	49.4
従業員数 〔外、平均臨時雇用者数〕 (名)	677 〔71〕	648 〔68〕	635 〔146〕	643 〔132〕	648 〔102〕

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第77期の1株当たり配当額24円のうち4円00銭は業績連動型配当制度に基づく特別配当金であります。

3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 平均臨時雇用者数は、派遣社員、パートタイマー及びアルバイトの臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

2 【沿革】

昭和27年に、東京都港区芝新桜田町において、ディスクロージャー関連書類印刷を専門とする会社として、現在の宝印刷株式会社の前身である株式会社宝商会の商号をもって創業いたしました。その後、産業界の驚異的復興・発展に対応して、昭和35年4月に、東京都港区田村町において新たに宝印刷株式会社を設立いたしました。

宝印刷株式会社設立以後の経緯は、次のとおりであります。

年月	概要
昭和35年4月	資本金500千円をもって東京都港区田村町六丁目13番地に宝印刷株式会社を設立
昭和36年5月	本店を東京都千代田区西神田二丁目9番地に移転
昭和38年4月	本店を東京都千代田区西神田三丁目8番10号(宮城会館)に移転
昭和39年2月	東京都豊島区高田南町に高南工場を新設
昭和42年8月	証券研究室内に証券研究会を創設し、ディスクロージャー関連書類の事例収集と分析等の活動に注力
昭和43年11月	本店を東京都豊島区高田三丁目23番9号に移転し、高南工場を廃止
昭和48年4月	外国営業部(現グローバルソリューション部)を設置し、日本における外国企業ならびに海外における国内企業のディスクローズに対応 証券研究室を証券研究部に改組し、ディスクロージャー関連法規の研究ならびに記載事例の収集、分析等に一段と注力
昭和59年3月	大阪証券取引所市場第二部特別指定銘柄制度(新二部市場)の開設に伴い、大阪市南区島之内一丁目22番20号(大和ビル)に大阪営業所を新設
昭和61年7月	本店を東京都豊島区高田三丁目28番8号(現在地)に移転 大阪営業所を大阪支店に名称変更するとともに大阪市中央区上町一丁目24番17号(現大阪支店別館工場)に移転
昭和63年5月	米国の印刷会社バウン・アンド・カンパニー・インク(現・アールアール ドネリー アンド サンズ カンパニー)と業務提携し、国際化に伴う業務の迅速化、効率化を図る(平成26年5月業務提携を解消)
昭和63年12月	社団法人日本証券業協会に店頭登録銘柄として登録
平成元年3月	名古屋市中区錦二丁目8番24号に名古屋営業所を新設(現在は名古屋市中区錦一丁目20番25号)
平成3年3月	作業の効率化を図るため本社別館隣接の土地建物(東京都豊島区高田三丁目23番10号)を購入
平成3年7月	企業のIR(インベスター・リレーションズ)活動を積極的にサポートするため、IR営業部・IR事業開発部を設置(現在はディスクロージャー&IR営業一部、二部、三部、四部およびIR企画部)
平成3年11月	大阪市中央区船越町一丁目6番6号に大阪支店を移転(現在は大阪市中央区瓦町三丁目6番5号)
平成4年5月	ディスクロージャー関連情報の総合的なサービスの提供のため、ディスクロージャー情報センター(D.I.C.)を開設
平成6年11月	福岡市中央区天神三丁目4番8号に福岡営業所を新設(現在は福岡市中央区天神二丁目14番2号)
平成7年9月	札幌市中央区大通西十一丁目4番に札幌営業所を新設
平成8年4月	東京都北区浮間四丁目24番23号に浮間工場を新設
平成8年8月	広島市中区紙屋町一丁目1番20号に広島営業所を新設
平成9年9月	株式会社フィナンシャルメディアを設立
平成10年4月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場
平成12年6月	浮間工場ISO9002取得
平成12年8月	横浜市神奈川区鶴屋町三丁目32番16号に横浜営業所を新設(平成17年1月横浜市西区北幸町一丁目11番15号に移転)
平成15年5月	東京証券取引所市場第一部銘柄に指定を受ける。
平成16年4月	ISO9001(品質)、ISO14001(環境)の両認証(適用範囲:全社)を同時取得
平成16年10月	WEB上でHTML編集を可能にした有価証券報告書等編集システム「Xエディター」を開発
平成16年12月	ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)の認証(適用範囲:「Xシステム」)を取得
平成17年3月	プライバシーマーク(個人情報保護システム)の認証(適用範囲:全社)を取得
平成17年12月	ISMSの認証(適用範囲:「Xエディター」)を追加取得
平成18年8月	執行役員制度を導入
平成18年12月	関連会社であった株式会社タスクを子会社化(現・連結子会社)
平成19年2月	ディスクロージャー・イノベーション株式会社(非連結子会社)を設立

年月	概要
平成19年4月	証券研究会(昭和42年8月創設)を発展的に改組し、総合ディスクロージャー研究所(現在は総合ディスクロージャー&IR研究所)として開設
平成20年6月	有限責任中間法人(現・一般社団法人)日本IPO実務検定協会へ出資(非連結子会社)
平成22年2月	連結子会社であった株式会社フィナンシャルメディアを経営の効率化を図るため同社事業を当社に譲渡し清算終了
平成22年6月	経営の効率化を図るため横浜営業所の業務機能を本社へ統合し同営業所を閉鎖
平成24年4月	株式会社野村総合研究所と共同でIR向けコミュニケーションサービス「e-AURORA XIRCLE」を開始
平成24年10月	ISMSの認証(適用範囲:「X-Smartシリーズ」)を追加取得
平成25年5月	関連会社であった株式会社スリー・シー・コンサルティングを子会社化(現・連結子会社)
平成25年10月	アジア各国への日本企業進出に絡むビジネスチャンスを調査する目的で、香港に駐在員事務所を新設
平成27年3月	TAKARA International (Hong Kong) Limited(非連結子会社)を設立 仙台宝印刷株式会社(非連結子会社)を設立

3 【事業の内容】

当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、当社と子会社7社の計8社で構成され、金融商品取引法関連、会社法関連等の印刷物の製作販売およびその他の事業を営んでおります。その主要製品は、ディスクロージャー関連書類の制作印刷物であり、それらに付帯する各種書類作成支援ツールの企画制作販売、コンサルティングおよびその他のサービス等の提供を行っております。

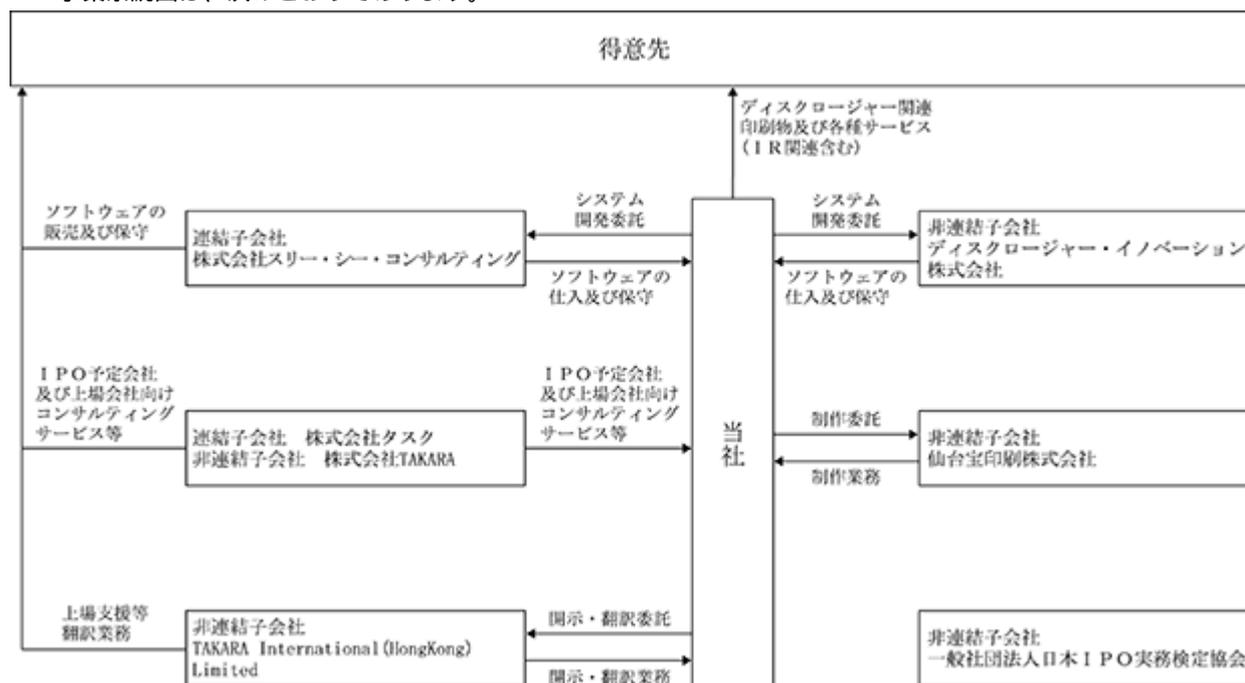
連結子会社の株式会社タスクは、主にIPO予定会社及び上場会社向けコンサルティング、申請書類の作成支援などを行っております。

連結子会社の株式会社スリー・シー・コンサルティングと非連結子会社のディスクロージャー・イノベーション株式会社は、ディスクロージャー関連ソフトウェアの開発・保守を行っております。

非連結子会社の一般社団法人日本IPO実務検定協会は、株式上場準備を担う人材の育成と上場後のディスクロージャー実務を担う人材の育成を目的に、IPO実務検定試験・財務報告実務検定試験の運営、合格者に対する研修、各種講演会等の企画・開催・運営・出版などを、TAKARA International (Hong Kong) Limitedは、アジア主要国の証券市場への上場支援等を、仙台宝印刷株式会社はディスクロージャー関連書類の制作業務を行っております。

当社グループは、ディスクロージャー関連事業の単一セグメントであります。取扱製品を金融商品取引法関連、会社法関連、IR関連、その他の4つに区分しております。

事業系統図は、次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は出資金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社タスク	東京都豊島区	35,000	その他	58.57	コンサルティング外注 セミナー講師委託 役員の兼任
(連結子会社) 株式会社スリー・シー・ コンサルティング	東京都豊島区	50,000	金融商品取引法 関連	50.91	ソフトウェアの開発及び保守 役員の兼任

- (注) 1. 主要な事業の内容欄には、製品区分の名称を記載しております。
2. 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。
3. 特定子会社に該当しません。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

(平成28年5月31日現在)

区分	従業員数(名)
全社(共通)	702〔102〕
合計	702〔102〕

- (注) 1. 従業員数は就業人員であります。
2. 当社及び連結子会社の事業は、ディスクロージャー関連事業の単一事業であり、従業員数は製品区別に区分できないため全社共通としております。
3. 従業員数欄の〔外書〕は、派遣社員、パートタイマー及びアルバイトの臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

(2) 提出会社の状況

(平成28年5月31日現在)

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
648〔102〕	40.3	13.1	6,442

- (注) 1. 従業員数は就業人員であります。
2. 当社の事業は、ディスクロージャー関連事業の単一事業であり、従業員数は製品区別に区分できないため全社共通としております。
3. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
4. 従業員数欄の〔外書〕は、派遣社員、パートタイマー及びアルバイトの臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

(3) 労働組合の状況

現在、当社グループにおいて労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満であり、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、中国や新興国経済の鈍化懸念により停滞した状態が続いております。こうした状況のもと、当社のディスクロージャー関連事業に関係が深い国内株式市場においては、平成27年夏に日経平均株価が2万円台を割り込んで以降、16,000～17,000円台での推移が長引いておりますが、国内IPO（新規上場）社数は底堅く推移し、4年連続の増加となりました。

一方、上場企業を取り巻く構造的な要因として、わが国政府の日本再興戦略に基づき、平成27年5月に改正会社法が施行されるとともに、同年6月にコーポレートガバナンス・コードが適用され、社外取締役の導入が一気に進みました。他方、わが国企業会計を巡る事件により、会計監査の一層の厳格化が求められるようになりました。

このような事業環境において、当社グループは、コーポレートガバナンス・コードを受けて高付加価値化した会社法関連製品の拡販および各種ディスクロージャー書類の翻訳ニーズの取り込み、決算・開示に係る支援等のコンサルティング受注が大きく伸びました。

その結果、当連結会計年度の売上高は14,669百万円（前連結会計年度比1,199百万円増、同8.9%増）となりました。利益面については、新EDINETに対応した費用等の減少による原価率の改善により、営業利益は1,570百万円（同664百万円増、同73.4%増）、経常利益は1,727百万円（同701百万円増、同68.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,084百万円（同505百万円増、同87.3%増）となりました。

当社グループは、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおり、ディスクロージャー関連事業の単一セグメントではありますが、売上高につきましては、金融商品取引法関連製品、会社法関連製品、IR関連製品、その他製品に区分して記載しております。

- ・ 金融商品取引法関連製品

競争が激しい状況は続いておりますが、ファイナンス案件の増加による目論見書等の売上が増加したため、売上高は5,219百万円（同214百万円増、同4.3%増）となりました。

- ・ 会社法関連製品

株主総会招集通知の売上および関連文書の翻訳の受注が増加し、売上高は3,711百万円（同467百万円増、同14.4%増）となりました。

- ・ IR関連製品

ディスクロージャー誌や機関投資家向けIRツールの売上が増加したため、売上高は3,734百万円（同122百万円増、同3.4%増）となりました。

- ・ その他製品

決算・開示に係る支援等のコンサルティングの受注や株主優待関連の売上高が増加したことにより、売上高は2,003百万円（同395百万円増、同24.6%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ1,104百万円(21.8%)増加し、6,178百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

- ・ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は1,977百万円(前連結会計年度比82.5%増)となりました。

収入の主な内訳は、税金等調整前当期純利益1,693百万円、減価償却費553百万円であり、支出の主な内訳は、退職給付に係る負債の減少額238百万円、法人税等の支払額204百万円であります。

- ・ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は312百万円(前連結会計年度比50.3%減)となりました。

収入の主な内訳は、投資事業組合からの分配による収入129百万円であり、支出の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出88百万円、無形固定資産の取得による支出270百万円であります。

- ・ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は560百万円(前連結会計年度比29.1%減)となりました。

これは主に、配当金の支払額549百万円によるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

当社グループは、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりディスクロージャー関連事業の単一セグメントであります。生産、受注及び販売の状況につきましては、金融商品取引法関連、会社法関連、I R関連、その他の4製品区分別に記載しております。

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績を製品区分別に示すと、次のとおりであります。

製品区分別の名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
金融商品取引法関連	5,219,979	+4.3
会社法関連	3,711,091	+14.4
I R関連	3,734,865	+3.4
その他	2,003,590	+24.6
合計	14,669,527	+8.9

- (注) 1. 金額は、販売価格によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当連結会計年度における受注実績を製品区分別に示すと、次のとおりであります。

製品区分別の名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
金融商品取引法関連	5,418,654	+8.2	1,437,385	+16.0
会社法関連	3,802,057	+12.9	941,242	+10.7
I R関連	3,915,915	+8.7	1,302,810	+16.1
その他	1,944,581	+23.4	572,532	9.3
合計	15,081,208	+11.3	4,253,971	+10.7

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績を製品区分別に示すと、次のとおりであります。

製品区分別の名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
金融商品取引法関連	5,219,979	+4.3
会社法関連	3,711,091	+14.4
I R関連	3,734,865	+3.4
その他	2,003,590	+24.6
合計	14,669,527	+8.9

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2. 最近2連結会計年度において、総販売実績の10%以上を占める販売顧客に該当するものではありません。

3 【対処すべき課題】

(1) 会社の対処すべき課題

開示書類の信頼性向上

お客様のニーズを的確に捉え、ディスクロージャー関連法令等の改正に関するアドバイスや原稿作成に関するコンサルティング、効率的で使いやすい法定開示書類作成支援ツールの提供など、従来の業務のクオリティを大きく改善し、お客様の信頼に応えてまいります。

お客様に満足していただくサービスの提供を通じて、信頼性の向上を図り、法定開示書類、任意開示書類の受注拡大を目指してまいります。

IPOにおける受注強化

当社が提供するサービスや信頼性が認められた結果、平成26年、27年と大型IPOを獲得し受注件数・金額ともに順調に推移しており、平成25年より3年連続過半数のシェアを維持しております。IPOでのシェアは、その後の法定開示書類のシェアに直結し、売上獲得の安定性を左右してまいりますため、今後とも、IPOにおける受注強化を目指してまいります。

株主総会プロセスの電子化への対応

昨年来、経済産業省で検討されてきた株主総会プロセスの電子化についての具体化が進められております。また、法令に則った株主総会招集通知を作成し、お客様企業の事業内容等を分かりやすく株主に伝えるという本質的な部分での当社の優位性は、一般印刷業者と一線を画しているものと考えています。しかしながら、中長期的には徐々に電子化されることが見込まれ、これに対応する新サービスの開発ならびに会社法関連製品の販売増ないし他品目での売上獲得などの対応に取り組んでまいります。

新規事業の開拓と育成

当社が更に飛躍するためには、新規事業の開拓と育成が必要と考えております。現在、当社は、お客様の人材ニーズにお応えするため、有料職業紹介事業を開始しております。紹介実績を積み上げ、飛躍させてまいります。

また、当社は、「グローバルなファイナンシャルサポート企業」を目指しており、国内企業の海外展開に必要な法定開示書類の作成、開示、翻訳の支援を強化すること、更には、今後も増加が見込まれるIFRSの任意適用企業に向けて、IFRSに関する情報の提供やコンサルティングに注力するとともに、IFRSに対応した決算・開示の自動化を進める当社グループのシステムの拡販を進めてまいります。

(2) 会社の支配に関する基本方針

基本方針の内容の概要

当社は、当社株式について大量買付がなされる場合、これが当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではありませんが、当社の企業価値が毀損され、株主の皆様にとって不本意な形で不利益が生じる可能性があるかと判断されるような当社株式の大量取得行為や買付提案を行う者は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者として適当でないと考えます。

したがって、当社は、当社株式に対する買付が行われた際に、株主の皆様が買付に応じるか否かを判断するためや取締役会が代替案を提案するために、必要な情報や時間を確保したり、買付者と交渉を行うことを可能とすること等、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に反する買付行為を抑止するための枠組みが必要であると考えております。

取組みの具体的な内容の概要

イ 会社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の基本方針の実現に資する特別な取組み

当社グループはこれまで進めてきた中期経営計画およびCSR経営を引き続き継続するとともに、攻めの経営を断行することにより持続的成長を実現させてまいります。

当社は、株式公開を目指した昭和63年頃から組織的な運営を行うため、諸規程の整備、運用、文書化の推進および内部監査を行い業務の改善に努めるとともに、利益計画を作成してまいりました。その精度を更に高めるため当社を取り巻く内部環境および外部環境の分析を基に、各ステーク・ホルダーにも配慮した経営計画の必要性を感じ、中期経営計画を策定することといたしました。その後、社会・環境・経済のトリプル・ボトムラインを意識した目標を加え、継続的に中期経営計画を策定しております。

その実行計画として各年度予算を策定し、全社的な目標を設定のうえ、各部門でその具体策をまとめ、社訓とともに、これに則した経営を展開し、着実な成長を実現してまいりました。

一方で、当社は、機密性または秘匿性の高い企業のディスクロージャー書類の印刷等を専門とする会社でありますので、専門的な知識はもとより、情報管理体制、品質管理体制などが重視されます。そのため、当社は平成12年6月にISOの品質規格（ISO9002）認証を全社に先駆け、工場において取得し、平成16年には全社において、品質規格（ISO9001）ならびに環境規格（ISO14001）認証を取得いたしました。

また、機密性または秘匿性の高い情報を扱うため、プライバシーマークの取得、ならびに情報セキュリティに対応するための、ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）認証を範囲を限定して取得するとともに、世界的な環境問題に対する配慮から「森林認証」などの国際認証を取得したほか、日本印刷産業連合会が認定するグリーンプリンティングを取得するなど、それぞれが要求するマネジメントシステムをCSR運用マニュアルとそれに付随する各種の規程を定め、一体化して運用しております。

ロ 基本方針に照らして不適切な者が支配を獲得することを防止するための取組み

当社は、平成19年8月23日開催の当社第70回定時株主総会において、当社の企業価値および株主共同の利益を確保し、または向上させることを目的として、株主の皆様のご承認をいただき、当社株式の大量買付行為に関する対応策（買収防衛策）を導入いたしました。その後、過去三度にわたり継続をしております。直近では、平成28年7月1日開催の取締役会において当社株式の大量買付行為に関する対応策（買収防衛策）を継続することを決議し、平成28年8月26日開催の当社第79回定時株主総会にて株主の皆様のご承認をいただきました。（以下、「本プラン」といいます。）

仮に当社株式に対する買付その他これに類似する行為またはその提案（以下総称して「買付」といいます。）が行われた場合、買付を行う者またはその提案者（以下総称して「買付者」といいます。）に対し、遵守すべき手続を明確にし、株主の皆様が適切な判断をするために必要かつ十分な情報および時間ならびに買付者との交渉の機会の確保をしようとするものであります。当社は、基本方針に照らして、当社の企業価値および株主の皆様共同の利益を明白に侵害するおそれのある買付者によって、当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止し、当社の企業価値が毀損され、株主の皆様にとって不本意な形で不利益が生じることを未然に防止しようとするものであります。

取組みの具体的な内容に対する当社取締役会の判断およびその理由

イ 買収防衛策に関する指針の要件をすべて充足していること

本プランは、当社基本方針に沿い、関係諸法令、裁判例、株式会社東京証券取引所の定める買収防衛策の導入に係る規則および「企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針」（平成17年5月27日 経済産業省・法務省）の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性確保の原則）、ならびに「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」（平成20年6月30日 企業価値研究会）の定める指針の内容を充足するものです。

ロ 株主意思の重視

本プランは、取締役会において決議を行い、株主総会に付議し株主の皆様のご承認をいただき、導入しております。

また、本プランの有効期間は約3年間に限定されていること、さらに、取締役の任期は1年とされていることから、取締役の選任議案を通じて、1年ごとに株主の皆様のご意思が反映されることとなります。

八 独立性の高い社外者の判断の重視と情報開示

本プランでは、取締役を監督する立場にある社外取締役、社外監査役または弁護士・大学教授等の社外有識者からなる特別委員会を設置し、取締役会は特別委員会の勧告に従い本プランの発動または不発動を決議するという手続を採用することにより、当社経営陣の恣意的判断を排し、当社の企業価値および株主共同の利益の維持・向上に資する公正な運営が行われる仕組みが確保されております。

また、特別委員会の判断の透明性を一層高めるため、買付者から提出された買付説明書の概要、買付者の買付内容に対する取締役会の意見、代替案の概要、その他特別委員会が適切と判断する事項を、原則として株主の皆様に対し速やかに情報開示を行うことといたしております。

二 本プラン発動のための合理的な客観的要件の設定

本プランは、あらかじめ定められた合理的な客観的要件が充足されなければ発動されないように設定されております。これにより、取締役会による恣意的な発動が防止される仕組みになっております。

ホ 第三者専門家の意見の取得

特別委員会は、当社の費用で、公認会計士、弁護士、コンサルタント、フィナンシャル・アドバイザー等の専門家など、独立した第三者の助言を得ることができるため、特別委員会による判断の公正さ、客観性は一層強く担保されるといえます。

へ デッドハンド型・スローハンド型の買収防衛策ではないこと

本プランは、その有効期間の満了前であっても、取締役会の決議によって廃止することができるため、いわゆるデッドハンド型買収防衛策ではありません。

また、当社の取締役の任期は1年であり、期差任期制ではありませんので、いわゆるスローハンド型の買収防衛策でもありません。

当社株式の大量買付行為に関する対応策（買収防衛策）の詳細につきましては、当社ホームページ（<http://www.takara-print.co.jp/>）に記載しておりますので、ご参照願います。

4 【事業等のリスク】

当連結会計年度末において当社が認識している経営成績、財政状況及びキャッシュ・フロー等に影響を及ぼす可能性のあるリスク及び変動要因は以下に記載するとおりますが、当社では、これらリスクの発生に伴う影響を極力回避するための努力を継続してまいります。

情報の管理

当社が取扱うお客様のデータの中には、インサイダー取引規制に該当するものも含む開示前機密データや個人情報があり、万一情報漏洩や情報流出が生じた場合は、当社の信用および業績に影響を与える可能性があります。このため、当社においては、プライバシーマーク認証の取得や情報セキュリティに対応するためのISMS認証を範囲を限定して取得するなど、システムと運用の両面で整備、強化するとともに、インサイダー取引管理規程をはじめとする諸規程を制定し、従業員教育を徹底するなど機密保持に努めております。

お客様に対するサービス内容は、EDINETをはじめとしたディスクロージャーのIT化の流れを踏まえ、IT技術を有効に活用したものとなってきております。そのため、当社は情報漏洩の事故防止の観点からお客様の情報セキュリティの確保を最重要課題と位置づけ、より強固な管理体制の構築に努めております。

また、当社内の資料等につきましても、情報管理規程の見直しを行い、更にその施行細則である情報管理実行マニュアルを新たに制定・運用し、情報の管理に努めております。

ディスクロージャー関連法令等の改正及び会計基準の変更による影響

当事業の根幹であるディスクロージャー関連書類の多くは、金融商品取引法および会社法に基づいて作成されておりますが、近年は投資家保護の観点等から、より適切な開示内容が求められ、法律や関連する諸制度の改正が頻繁に行われております。

また、わが国の会計基準はIFRSとのコンバージェンスを進め、ここ数年、数多くの改正が行われ、引き続き様々な検討がなされております。

さらに、株主総会プロセスの電子化に係る議論が進められ、当社の主要な製品である株主総会招集通知の印刷に対しても何らかの影響が予想されるところであります。

これらの改正等により、当社が受注しているディスクロージャー関連書類は、記載内容の変更等に伴いページ数や必要部数の増減が生じるなど、当社の売上に影響を与えることがあります。

EDINETの高度化など、ディスクロージャーの開示手段及び方法も度々変更されており、大規模なシステム改修を行うことによって、お客様のディスクロージャー実務の支援を継続しなければならない場合もあります。

当社は、このような改正の動向を一早く把握し、対応策を素早く講ずることができるよう、常にディスクロージャー制度や会計基準に関するあらゆる情報を収集・分析するとともに、社内各部署と十分に情報共有を行い対応しております。

退職給付関係

退職給付に係る負債は、退職給付債務と年金資産の動向によって変動しますが、数理計算上の仮定に変動が生じた場合、又は運用環境の悪化等により年金資産が減少した場合等には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を受ける可能性があります。

株式市場からの影響

当社が専門領域としているディスクロージャー関連書類の作成につきましては、有価証券報告書や株主総会招集通知などの継続開示書類と、株式の新規上場時の申請書類やファイナンスに関する書類などの不定期開示書類とがあります。このうち不定期開示書類関連の受注につきましては、株式市場の影響を受け、当社の売上ならびに利益は大きな影響を受けることがあります。

当社は、この影響を軽減するため、継続開示書類を積極的に受注すべく営業活動を展開し、お客様のニーズに的確に応えるサービスの提供に努めることにより、業績の安定を目指しております。

また、上場会社数の減少は、当社にとってお客様の減少に繋がることから、売上ならびに利益の減少要因となります。

売上高の季節的変動

当社の売上高は、お得意様の決算期が3月に集中しているに伴い季節的変動があり、第1四半期（6月～8月）の売上高が他の四半期に比べて高くなる傾向があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 当連結会計年度の経営成績の分析

概要

当連結会計年度は、株主総会招集通知の売上および関連文書の翻訳の受注増加や、決算・開示に係る支援等のコンサルティングの受注が増加したことなどにより、通期の売上高は前連結会計年度に対し8.9%増加し、14,669百万円となりました。

売上高及び営業利益

売上高につきましては、「1 業績等の概要(1)業績」と「2 生産、受注及び販売の状況」に記載のとおりであります。

売上原価は、前連結会計年度より219百万円増加し、8,560百万円となり、原価率は3.5ポイント改善し、58.4%となりました。

販売費及び一般管理費は、前連結会計年度より315百万円増加し、4,538百万円となりました。

この結果、営業利益は、前連結会計年度に比べ73.4%増加し、1,570百万円となりました。

営業外損益及び経常利益

営業外損益は、前連結会計年度の120百万円(純額)から156百万円(純額)となりました。

この結果、経常利益は前連結会計年度に比べ68.3%増加し、1,727百万円となりました。

特別損益及び税金等調整前当期純利益

特別損益は、前連結会計年度の 2百万円(純額)から 33百万円(純額)となりました。これは、前連結会計年度に投資有価証券売却益11百万円を計上していたことや、当連結会計年度に社葬費用19百万円を計上したことなどによるものであります。

この結果、税金等調整前当期純利益は、前連結会計年度に比べ65.5%増加し、1,693百万円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益

親会社株主に帰属する当期純利益は1,084百万円となり、前連結会計年度に比べ87.3%増加しました。

1株当たり当期純利益は、前連結会計年度に比べ93.4%増加し、96円99銭となりました。

(2) 当連結会計年度の財政状態の分析

資産、負債及び純資産の状況

・ 資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べて1,291百万円(14.8%)増加し、10,022百万円となりました。これは、現金及び預金が1,104百万円、受取手形及び売掛金が167百万円それぞれ増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて546百万円(6.3%)減少し、8,074百万円となりました。これは、繰延税金資産が308百万円増加し、投資有価証券が208百万円、退職給付に係る資産が439百万円それぞれ減少したことなどによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて745百万円(4.3%)増加し、18,096百万円となりました。

・ 負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べて770百万円(25.8%)増加し、3,758百万円となりました。これは、未払法人税等が427百万円増加したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて1,141百万円(226.5%)増加し、1,646百万円となりました。これは、退職給付に係る負債が1,500百万円増加し、繰延税金負債が362百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて1,912百万円(54.8%)増加し、5,404百万円となりました。

・ 純資産

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて1,167百万円(8.4%)減少し、12,692百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する当期純利益1,084百万円の計上、退職給付に係る調整累計額1,495百万円の減少などによります。

(3) 当連結会計年度のキャッシュ・フローの分析

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ1,104百万円(21.8%)増加し、6,178百万円となりました。

営業活動の結果得られた資金は1,977百万円(前連結会計年度比82.5%増)となりました。

投資活動の結果使用した資金は312百万円(前連結会計年度比50.3%減)となりました。

財務活動の結果使用した資金は560百万円(前連結会計年度比29.1%減)となりました。

なお、キャッシュ・フローの詳細は、「1 業績等の概要 (2)キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度に実施いたしました設備投資の総額は379百万円であり、その内訳は、有形固定資産90百万円、無形固定資産289百万円であります。主なものは、法定開示書類作成支援システムの開発にかかるものであります。現在も、ユーザーニーズに応えるため継続してシステム開発及び保守に取り組んでおります。

なお、当社グループは「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりディスクロージャー関連事業の単一セグメントであるため、設備の状況についてはセグメント情報ごとに記載しておりません。また、重要な設備の除却または売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

(平成28年5月31日現在)

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
		有形固定資産				無形 固定資産 ソフト ウェア	合計	
		建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他			
本社・工場・本社 第1、第2分室 (東京都豊島区)	制作設備 販売その他 設備	300,403	10,498	1,379,100 (956.16)	41,841	927,038	2,658,883	411〔18〕
本社別館 (東京都豊島区)	制作設備	189,547	6,493	792,310 (690.44)	65,877		1,054,229	92〔61〕
浮間工場 (東京都北区)	印刷設備	227,881	159,123	830,468 (2,236.84)	1,721		1,219,194	71〔19〕
大阪支店 他4営業所(大阪 市中央区他)	制作設備 印刷設備 販売その他 設備	16,546	4,840	113,000 (155.66)	8,578		142,965	74〔4〕

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。
2. 現在休止中の主要な設備はありません。
3. 従業員数欄の〔外書〕は、派遣社員、パートタイマー及びアルバイトの臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

(2) 国内子会社

主要な設備等はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	37,000,000
計	37,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成28年5月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年8月26日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	12,936,793	12,936,793	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	12,936,793	12,936,793		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成19年6月1日～ 平成20年5月31日(注)	39	12,936	10,342	2,049,318	10,342	1,998,315

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(6) 【所有者別状況】

平成28年5月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		24	24	143	59	13	19,436	19,699	
所有株式数(単元)		24,255	2,798	18,164	6,727	13	76,840	128,797	57,093
所有株式数の割合(%)		18.83	2.17	14.10	5.22	0.01	59.67	100.00	

- (注) 1. 自己株式1,758,546株は「個人その他」に17,585単元、「単元未満株式の状況」に46株含まれております。
2. 上記「その他の法人」及び「単元未満株式の状況」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、それぞれ49単元及び72株含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成28年5月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社野村	東京都中野区鷲宮三丁目32番11号	632	4.89
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	544	4.20
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	476	3.68
野村正道	東京都中野区	380	2.93
宝印刷社員持株会	東京都豊島区高田三丁目28番8号	223	1.73
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	176	1.36
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	169	1.31
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号	168	1.30
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	120	0.93
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口6)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	115	0.89
計		3,009	23.26

- (注) 1. 上記のほか、自己株式が1,758千株(13.59%)あります。
2. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。
- | | |
|----------------------------|-------|
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 176千株 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1) | 120千株 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口6) | 115千株 |

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成28年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,758,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,121,200	111,212	
単元未満株式	普通株式 57,093		
発行済株式総数	12,936,793		
総株主の議決権		111,212	

(注) 上記「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が4,900株(議決権49個)含まれております。

【自己株式等】

平成28年5月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 宝印刷株式会社	東京都豊島区高田 三丁目28番8号	1,758,500		1,758,500	13.59
計		1,758,500		1,758,500	13.59

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成27年2月6日)での決議状況 (取得期間平成27年2月20日~平成27年7月31日)	650,000	500,000,000
当事業年度前における取得自己株式	483,500	499,997,800
当事業年度における取得自己株式		
残存決議株式の総数及び価額の総額	166,500	2,200
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	25.62	0.00
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)	25.62	0.00

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	495	643,577
当期間における取得自己株式	106	147,900

(注) 当期間における取得自己株式には、平成28年8月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他(単元未満株式の買増請求)				
保有自己株式数	1,758,546		1,758,652	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成28年8月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び買増請求による株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主の皆様への長期的利益還元を重要な経営課題の一つと考え、安定配当を行うことを基本とし、企業体質の強化および今後の事業展開を勘案したうえで、業績に応じた配当を加味することとしております。また、当社の剰余金の配当は、中間配当および期末配当の年2回を基本的な方針としております。

当社は、剰余金の配当および自己株式の取得等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役会決議によって定めることができる旨、定款に定めております。

この基本方針のもと、株主の皆様へのさらなる利益還元を検討した結果、現在、業務遂行を円滑に実施するために必要な内部留保はできているものと考え、可能な限り配当金として株主の皆様へ還元することとし、年間配当金は、1株当たり50円（中間配当25円、期末配当25円）を基本とする配当を行う方針としております。

自己株式の取得につきましては、株主の皆様への利益還元と資本効率の向上を目的に当社株式の流動性等を勘案しつつ、必要に応じて実施することとしております。

内部留保につきましては、企業価値向上に向けた投資等に活用し、将来の積極的な事業展開に備えた経営基盤の強化に活用していきたいと考えております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成27年12月28日 取締役会決議	279,462	25.00
平成28年7月1日 取締役会決議	279,456	25.00

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第75期	第76期	第77期	第78期	第79期
決算年月	平成24年5月	平成25年5月	平成26年5月	平成27年5月	平成28年5月
最高(円)	660	818	836	1,404	1,449
最低(円)	552	520	621	729	1,102

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成27年 12月	平成28年 1月	2月	3月	4月	5月
最高(円)	1,363	1,347	1,350	1,369	1,395	1,449
最低(円)	1,276	1,167	1,174	1,247	1,285	1,320

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員の状況】

男性11名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長		堆 誠一郎	昭和28年12月17日生	昭和61年1月 平成元年5月 平成3年7月 平成3年8月 平成8年10月 平成9年8月 平成9年10月 平成14年8月 当社入社 社長室長 総合企画部長 取締役総合企画部長 取締役経理部長 常務取締役経理部長 常務取締役管理本部長兼総合企画部長 代表取締役社長(現)	(注3)	22
取締役	常務執行役員 営業企画部長 兼営業開発部 担当兼営業業 務部担当兼IT サービス営業 部担当	青 木 孝 次	昭和28年6月17日生	昭和53年4月 平成5年4月 平成11年9月 平成12年8月 平成17年8月 平成18年8月 平成20年8月 平成22年7月 平成25年7月 平成27年7月 当社入社 大阪支店長 営業企画部長 取締役制作部長 常務取締役制作部長 取締役常務執行役員営業企画部長 取締役常務執行役員営業企画部長兼X B R L推進室担当 取締役常務執行役員営業企画部長兼I F R S室担当兼X B R L推進室担当兼 I Tサービス営業担当 取締役常務執行役員営業企画部長兼営 業開発部担当兼X B R L推進室担当兼 営業業務部担当兼I Tサービス営業部 担当 取締役常務執行役員営業企画部長兼営 業開発部担当兼営業業務部担当兼I T サービス営業部担当(現)	(注3)	29
取締役	常務執行役員 C S R部長兼 ディスクロー ジャー研究二 部担当	田 村 義 則	昭和32年1月6日生	昭和55年4月 平成11年9月 平成12年6月 平成13年7月 平成13年8月 平成16年8月 平成18年8月 平成22年7月 平成25年7月 平成27年7月 平成28年2月 社団法人日本証券業協会(現 日本証 券業協会)入所 太田昭和監査法人(現 新日本有限責 任監査法人)入所 公開業務推進部長 日本ファースト証券株式会社取締役 当社入社顧問 公開支援室長 取締役公開支援室長 取締役常務執行役員ディスクロー ジャー研究三部長 取締役常務執行役員ディスクロー ジャー研究一部長兼C S R担当 取締役常務執行役員C S R部長兼ディ スクロージャー研究一部担当兼ディ スクロージャー研究二部担当 取締役常務執行役員C S R部長兼ディ スクロージャー研究一部長兼ディ スクロージャー研究二部長 取締役常務執行役員C S R部長兼ディ スクロージャー研究二部担当(現)	(注3)	6
取締役	常務執行役員 ディスクロー ジャー& I R 営業五部長兼 制作部長兼デ ザインセン ター担当	加 島 英 一	昭和30年9月25日生	昭和63年2月 平成9年10月 平成10年9月 平成16年9月 平成18年8月 平成21年7月 平成22年7月 平成25年7月 平成25年8月 平成26年7月 平成28年7月 当社入社 経理部長 総務部長 総合企画部長兼総務部長 執行役員総務人事部長 執行役員ディスクロージャー営業一部 長 執行役員ディスクロージャー& I R 営業二部長兼ディスクロージャー& I R 営業四部担当 常務執行役員ディスクロージャー& I R営業二部長 取締役常務執行役員ディスクロー ジャー& I R営業二部長 取締役常務執行役員制作部長 取締役常務執行役員ディスクロー ジャー& I R営業五部長兼制作部長兼 デザインセンター担当(現)	(注3)	7

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	常務執行役員 ディスクロージャー & I R 営業二部長	今井 哲 男	昭和32年 1月17日生	昭和56年 4月 平成16年11月 平成19年 4月 平成19年 8月 平成20年 8月 平成22年 7月 平成26年 7月 平成27年 8月	三井信託銀行株式会社(現 三井住友信託銀行株式会社)入社 中央三井信託銀行株式会社(現 三井住友信託銀行株式会社)阿倍野支店長 当社入社ディスクロージャー営業一部担当部長 ディスクロージャー営業推進部長 執行役員ディスクロージャー営業推進部長 執行役員ディスクロージャー & I R 営業三部長 執行役員ディスクロージャー & I R 営業二部長 取締役常務執行役員ディスクロージャー & I R 営業二部長(現)	(注 3)	2
取締役	執行役員	津田 晃	昭和19年 6月15日生	昭和43年 4月 昭和62年12月 平成元年 6月 平成 8年 6月 平成 9年 6月 平成11年 4月 平成14年 5月 平成15年 6月 平成17年 6月 平成17年 6月 平成21年 4月 平成21年 6月 平成21年 8月 平成27年 6月	野村證券株式会社入社 同社取締役 同社常務取締役 同社代表取締役専務取締役 日本合同ファイナンス株式会社(現株式会社ジャフコ)代表取締役専務取締役 同社代表取締役副社長 野村インベスター・リレーションズ株式会社取締役会長 同社執行役会長 日本ベンチャーキャピタル株式会社代表取締役社長 日立キャピタル株式会社社外取締役 日本ベンチャーキャピタル株式会社取締役 株式会社西島製作所社外監査役 当社取締役執行役員(現) 株式会社西島製作所社外取締役(現)	(注 3)	1
取締役		清水 寿 二	昭和25年 9月14日生	昭和49年 4月 平成14年 6月 平成14年 6月 平成15年 6月 平成18年 6月 平成19年 8月 平成20年 8月 平成21年 6月 平成25年 6月	東京証券取引所入所 株式会社東京証券取引所執行役員 株式会社日本証券クリアリング機構取締役 日本証券決済株式会社代表取締役社長 株式会社東京証券取引所常務執行役員 株式会社東京証券取引所グループ常務執行役員 当社取締役(現) 株式会社日本商品清算機構社外取締役(現) 株式会社東京商品取引所社外取締役(現)	(注 3)	-
取締役		高橋 厚 男	昭和15年11月12日生	昭和39年 4月 昭和63年 6月 平成元年 6月 平成 2年 6月 平成 3年 6月 平成 5年 6月 平成 6年 7月 平成10年 7月 平成16年 4月 平成17年 7月 平成19年11月 平成22年 8月 平成23年 6月 平成24年 6月 平成25年 6月 平成27年 5月	大蔵省(現財務省)入省 銀行局総務課長 東海財務局長 近畿財務局長 大臣官房審議官(銀行局担当) 関税局長 日本開発銀行理事 日本証券業協会常務理事・専務理事・副会長を歴任 公認会計士・監査審査会委員 財団法人日本証券経済研究所理事長(現 公益財団法人日本証券経済研究所) 日本投資者保護基金理事長 当社取締役(現) 公益財団法人日本証券経済研究所特別囑託 極東証券株式会社社外取締役 藍澤証券株式会社社外取締役(現) 高木証券株式会社社外監査役(現) 公益社団法人日本関税協会理事長(現)	(注 3)	-
監査役 (常勤)		平松 有 恒	昭和29年 3月11日生	昭和57年 6月 平成 8年 4月 平成14年 3月 平成16年 9月 平成18年 8月 平成27年 7月 平成27年 8月	藤倉電線株式会社(現 株式会社フジクラ)入社 同社総務部担当部長 当社入社商法研究部担当次長 商法研究部長 執行役員ディスクロージャー研究二部長 人事部担当部長 常勤監査役(現)	(注 4)	13

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
監査役		大西 裕	昭和31年5月9日生	平成元年4月 平成6年8月	弁護士(現) 当社監査役(現)	(注4)	-
監査役		山上 大介	昭和21年11月24日生	昭和50年11月 昭和56年9月 平成2年7月 平成12年8月 平成13年3月 平成13年6月 平成15年8月 平成27年3月	等松・青木監査法人(現 有限責任監査法人トーマツ)東京事務所入所 公認会計士登録(現) 監査法人トーマツ(現 有限責任監査法人トーマツ)社員登録 山上公認会計士事務所開設(現) 株式会社小田原エンジニアリング社外監査役(現) 日本特殊塗料株式会社社外監査役(現) 当社監査役(現) ローヤル電機株式会社社外監査役(現)	(注4)	-
計							84

- (注) 1. 取締役清水寿二及び取締役高橋厚男は、社外取締役であります。
2. 監査役大西 裕及び監査役山上大介は、社外監査役であります。
3. 取締役の任期は、平成28年5月期に係る定時株主総会終結の時から平成29年5月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4. 監査役の任期は、平成27年5月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年5月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
5. 当社は、法令に定める監査役の数に欠けることになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選任しております。
補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
平松 朗	昭和32年1月26日生	平成22年8月 平成28年7月	当社入社 執行役員ディスク ロージャー情報セ ンター長兼総合 ディスクロー ジャー&IR研究 所長(現)	(注)	-

- (注) 補欠監査役の任期は、就任した時から退任した監査役の任期の満了の時までであります。
6. 当社では、経営の意思決定と業務執行機能を分離し、それぞれの効率・迅速化を図り経営体制を強化するために、平成18年8月24日から執行役員制度を導入しております。なお、取締役を兼務している執行役員以外の執行役員は次のとおり14名であります。

職名	氏名
常務執行役員大阪支店長	阿部 芳實
常務執行役員企業成長支援部長	吉原 直輔
執行役員総合企画部長兼総務部長兼人事部担当	篠原 正雄
執行役員経理部長兼情報企画部担当	若松 宏明
執行役員ディスクロージャー研究一部長	鎌田 浩嗣
執行役員ディスクロージャー情報センター長兼総合ディスクロージャー&IR研究所長	平松 朗
執行役員IR企画部長兼ディスクロージャー&IR営業四部長	秋庭 俊次
執行役員金融法人営業一部長兼金融法人営業二部担当	相原 規之
執行役員ディスクロージャー&IR営業三部長兼札幌営業所長	那波 宗彦
執行役員ディスクロージャー&IR営業推進部長	鈴木 弘次
執行役員グローバルソリューション部長	岡田 竜介
執行役員コーポレートコンサルティング部長	井前 哲史
執行役員リート業務部長	栗原 洋二
執行役員印刷部浮間工場長兼生産管理部長	小林 浩幸

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

基本的な考え方

当社は、高品質のディスクロージャー&IR・サービスの提供を通じ、お客様に感動していただける企業を目指すという基本理念のもと、持続的な成長と社会的な存在価値および中長期的な企業価値を向上させるため、取締役会決議に基づきコーポレート・ガバナンスに関する基本方針を制定し、公表しております。

当社のコーポレート・ガバナンスに対する基本的な考え方は、株主の権利を尊重し、平等性を確保するとともに、株主、従業員、顧客、取引先、債権者、地域社会をはじめとする様々なステーク・ホルダーの利益を考慮し、それらステーク・ホルダーと適切に協働すること、また、会社情報を適時・適切に開示し、透明性を確保することとしており、この基本的な考え方に沿って、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでおります。

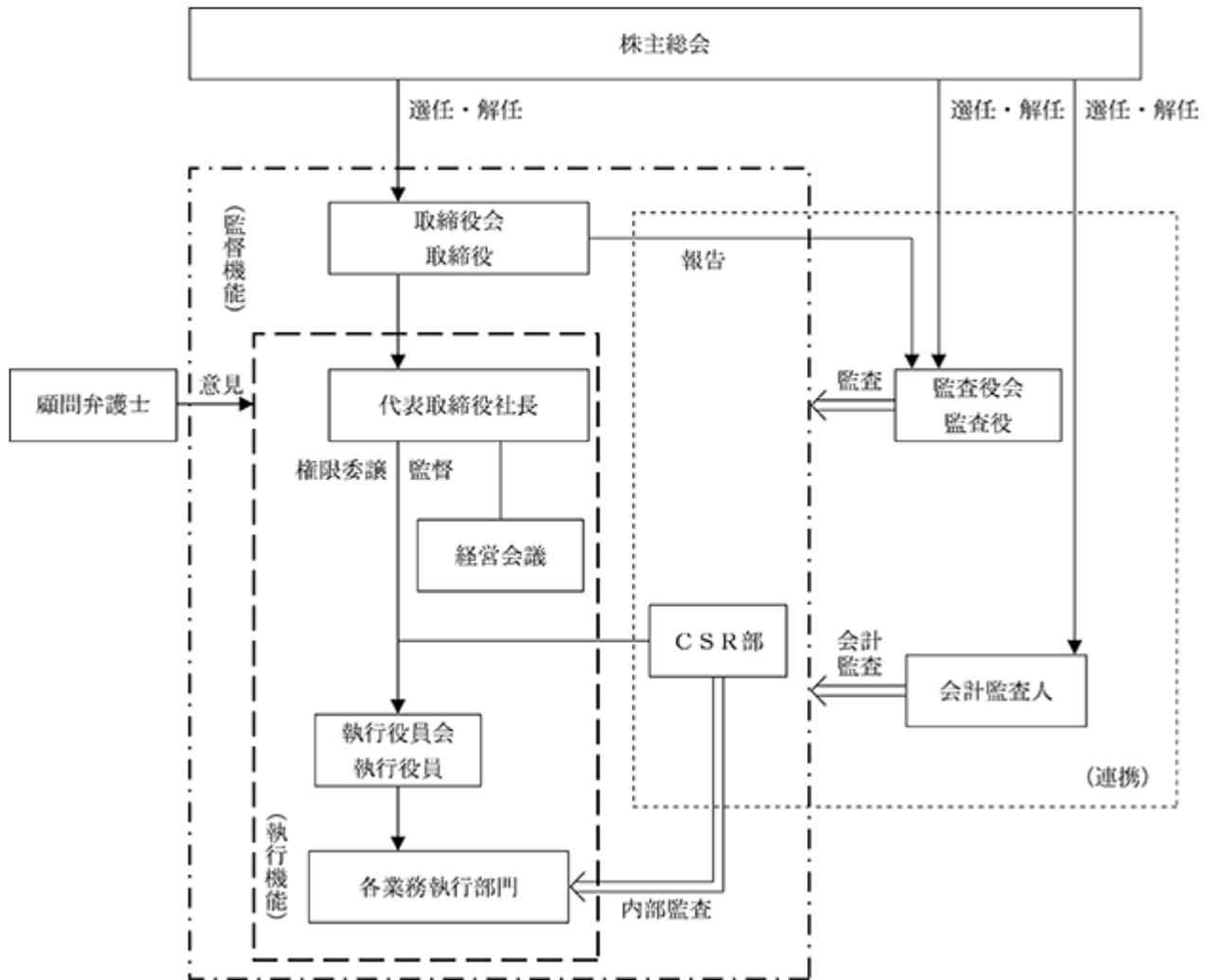
なお、当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本方針およびコーポレート・ガバナンス報告書につきましては、当社ホームページ (<http://www.takara-print.co.jp/company/cg.html>) に記載しておりますので、ご参照願います。

企業統治の体制

1. 企業統治の体制

- ・ 当社は監査役設置会社であります。当社は、監査役会を設置し、社外監査役を含めた監査役による監査体制が経営監視機能として有効であると判断し、監査役設置会社形態を採用しております。
- ・ 取締役会は、当社の規模等に鑑み機動性を重視し、社外取締役2名を含む8名の体制をとっております。取締役会は原則月2回の定例取締役会のほか、必要に応じ臨時取締役会を開催し、法令で定められた事項や、経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行の状況を監督しております。
- ・ 社外取締役は、取締役会などにおける重要な業務執行に係る意思決定プロセス等において当社の業務執行を行う経営陣から独立した中立的な立場から経営判断をしていただくために、幅広い、且つ奥行きのある豊富な経験と高い見識を有する方を選任するものとしております。
また、社外監査役は、取締役会などにおける重要な業務執行に係る意思決定プロセス等において一般株主の利益に配慮した公平で公正な決定がなされるために、公認会計士、弁護士としての専門的な知識や経験などを有する方を選任するものとしております。
- ・ 社外取締役および社外監査役候補者の選定に当たっては、個別具体的に、東京証券取引所の定める独立性判断基準および開示加重要件を参考に、当社との人的関係、資本的關係、または取引関係、その他の利害関係を確認しております。また、一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員として、1名以上確保することとしております。
- ・ 当社は取締役会への付議事項の事前審議および取締役会の決定した基本方針に基づき、その業務執行方針・計画・重要な業務の実施等に関する協議機関として取締役常務執行役員以上をメンバーとする経営会議を原則月1回開催しております。
- ・ 取締役候補者は代表取締役社長が選定し、取締役会での承認を得た後、株主総会の決議により、取締役に選任しております。
- ・ 執行役員は代表取締役社長が指名し、取締役会での承認を得て選任しております。執行役員は取締役会からの権限委譲により業務執行を行います。

< 当社のコーポレート・ガバナンスおよび内部管理体制の概要 >



2. 内部統制システムの整備の状況及びリスク管理体制の整備状況

(1) 取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

株主、従業員、顧客、取引先、債権者、地域社会をはじめとする様々なステーク・ホルダーに対する社会的責任を果たすため、企業価値向上を経営上の基本方針とし、その実現のため、倫理・コンプライアンス規程、「反社会的勢力および団体への対処」の項目を含む行動規範を制定・施行し、役員ならびに従業員が法令・定款等を遵守することの徹底を図るとともに、内部通報制度を含むリスク管理体制の強化に取組み、内部統制システムの充実に努める。

(2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

取締役の職務の執行に係る情報・文書は、当社社内規程およびそれに関する各管理マニュアルに従い適切に保存し管理する。

(3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

取締役会がリスク管理体制を構築する責任と権限を有し、これに従いリスク管理に係る危機管理規程を制定・施行し、リスク管理体制を構築する。

リスク管理部門として総務部がリスク管理活動を統括し、規程の整備と検証・見直しを図る。

内部監査を担当するCSR部は定期的に業務監査実施項目および実施方法を検討し、監査実施項目が適切であるか否かを確認し、必要があれば監査方法の改訂を行う。

法令・定款違反その他の事由に基づき損失の危険のある業務執行行為が発見された場合、直ちに取締役会および担当部署に通報し、発見された危険の内容およびそれがもたらす損失の程度等について担当部署が把握に努めるとともに、対応し、改善する。

大規模災害等が発生した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定する等、緊急時の体制を整備する。

(4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

事業運営については、経営環境の変化を踏まえ中期経営計画を策定し、その実行計画として各年度予算を策定し、全社的な目標に基づく具体策を各部門で立案し、実行する。また、CSRの理念を重視した経営体制を整備するため、CSR部を設置し、会社法および金融商品取引法上の内部統制システムの監査を含めたCSR経営推進のための体制を構築する。また、金融商品取引法上の内部統制体制を整備し、評価するため、「内部統制プロジェクト」を組成し、その対応にあたる。

変化の激しい経営環境に対し機敏な対応を図るため、執行役員制度を導入し、所管する各部署の業務を執行する。

定例の取締役会を原則月2回開催し、重要事項の決定および業務執行状況の監督等を行うとともに、業務執行上の責任を明確にするため、取締役の任期を1年と定めている。

取締役会への付議議案については、取締役会規則に定める付議基準に則り提出し、取締役会における審議が十分行われるよう付議議題に関する資料は事前に全役員に配布する。

日常の職務執行に際しては、基本組織規程等に基づき権限の委譲が行われ、効率的に業務を遂行する。

(5) 使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

従業員に法令・定款の遵守を徹底するため、倫理・コンプライアンス規程、行動規範を制定・施行し、それらを遵守するとともに、従業員が法令・定款等に違反する行為を発見した場合の報告体制としての内部通報制度を構築するため、内部通報規程を制定・施行する。

担当役員は、倫理・コンプライアンス規程に従い、担当部署にコンプライアンス責任者その他必要な人員配置を行い、かつ、コンプライアンス・マニュアルの実施状況を管理・監督し、従業員に対して「社員向けコンプライアンステキスト」を配布するなど、適切な研修体制を構築する。また、社内通報窓口に加え、第三者機関（外部のコンサルティング会社）を内部通報窓口とする内部通報窓口（宝リスクホットライン）規程を制定・施行する。

(6) 当社および子会社から成る企業集団（以下、「当社グループ」という。）における業務の適正を確保するための体制

当社グループの業務の適正性を確保し、グループの戦略的経営を推進するため、代表取締役社長および常務執行役員ならびに子会社役員を構成員とする会議を原則月1回開催する。

当社グループの業務の適正につきましては、関係会社管理規程に従い管理し、業務執行の状況について、CSR部、総務部、人事部、経理部、総合企画部等の各担当部が当社規程に準じて評価および監査を行う。

当社グループ間の取引については、一般的な取引条件を勘案し、取締役の稟議決裁により決定する。

CSR部、総務部、人事部、経理部、総合企画部等の各担当部は、子会社に損失の危険が発生し、各担当部がこれを把握した場合には、直ちに発見された損失の危険の内容、損失の程度および当社グループに及ぼす影響等について、当社の取締役会および担当部署に報告する体制を確保し、これを推進する。

当社グループは、当社の定める内部通報規程および内部通報窓口（宝リスクホットライン）規程に従う。

- (7) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
監査役会がその職務を補助する従業員を置くことを求めた場合には、当該従業員を配するものとし、配置にあたっての具体的な内容（組織、人数、その他）については、監査役会と相談し、その意見を十分考慮する。
- (8) 監査役職務を補助すべき使用人の取締役からの独立性に関する事項および当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
監査役職務を補助すべき従業員の任命・異動については、監査役会の同意を必要とする。
監査役職務を補助すべき従業員は、当社の業務執行に係る役職を兼務せず監査役の指揮命令下で職務を遂行し、取締役の指揮命令は受けない。
また、当該従業員の評価については監査役の意見を聴取する。
- (9) 取締役および使用人ならびに子会社の取締役・監査役等および使用人またはこれらの者から報告を受けた者が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制
当社グループの役員および従業員は、当社グループの経営、業績に影響を与える重要な事項や重大な法令・定款違反行為その他会社に著しい損害を与える事項について発生次第速やかに当社の監査役に報告する。
また、当社グループの役員および従業員は、監査役から報告を求められた場合には、速やかに必要な報告および情報提供を行う。
- (10) 監査役へ報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
当社の定める内部通報規程において、監査役への内部通報について不利な扱いを受けない旨を規定・施行する。
- (11) 監査役職務の執行について生ずる費用の前払または償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項
監査役がその職務の執行について、当社に対し費用の前払等の請求をした際には、担当部門において審議のうえ、当該請求に係る費用または債務が当該監査役職務の執行に必要なでないことを証明した場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理する。
- (12) その他監査役職務の執行が実効的に行われることを確保するための体制
取締役は、法令に基づく事項のほか、監査役が求める事項を適宜、監査役へ報告する。
監査役会、CSR部および会計監査人は必要に応じ相互に情報および意見の交換を行うなど連携を強め、監査の質的向上を図る。
代表取締役社長は、監査役と定期的に会合し、コンプライアンス面や内部統制の整備状況などについて意見交換を行う。
代表取締役社長は、内部監査部門の実施する内部監査の計画、内部監査実施の経過およびその結果を監査役に報告する。
- (13) 反社会的勢力排除に向けた体制整備
倫理・コンプライアンス規程、行動規範を制定・施行し、取締役ならびに従業員への徹底により、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体との関係を遮断・排除する。
取締役および従業員は、反社会的勢力に対して常に注意を払うとともに、万一不当要求など何らかの関係の有ってしまったときの対応については危機管理規程に従い、総務部を中心に外部専門機関と連携して速やかに関係を解消する。

内部監査及び監査役監査

当社の内部監査体制は、内部監査部門としてCSR部4名を設置し、会社法及び金融商品取引法上の内部統制システムの整備・改善及び業務の遂行が、各種法令や、当社の各種規程類および経営計画などに準拠して実施されているか、効果的、効率的に行われているかなどについて調査・チェックし、指導・改善に向けた内部監査を行っております。

監査役会は常勤監査役1名、社外監査役2名の計3名体制をとっております。各監査役は監査役会が定めた監査役監査基準、監査計画及び職務分担に基づき、業務の執行の適法性について監査しております。社外監査役2名は弁護士及び公認会計士であり、専門的見地から監査を行っております。

監査役および内部監査部門であるCSR部は相互の監査計画の交換ならびにその説明・報告、業務の効率性（財務報告の適正性を含む）の状況、会社法および金融商品取引法上の内部統制への対応等CSR経営全般について連携して監査を実施しております。

また、監査役および会計監査人は、相互の監査計画の交換ならびにその説明・報告、定期的面談の実施による監査環境等当社固有な問題点の情報の共有化、棚卸および支店・営業所監査の立ち合い等を連携して行い監査の質的向上を図っております。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は2名であり、社外監査役は2名であります。

取締役会における適切かつ効率的な意思決定を実現するため、社外取締役は、取締役会において、独立した視点によりそれぞれの見識に基づいた助言を行っており、社外監査役は、業務執行の適法性について監査し、経営に対する監視機能を果たしております。

社外取締役2名のうち、清水寿二氏はディスクロージャー業務と密接な関係にある証券市場において卓越した識見と幅広い経験を有しており、また、高橋厚男氏はディスクロージャー業務と密接な関係にある証券市場および証券業界に関する豊富な経験、知見を有しており、その経歴等から両氏は社外取締役として当社の経営に有用な意見をいただけるものと判断しております。

2名の社外監査役について、大西裕氏は弁護士としての企業法務等に関する豊富な専門的知見を有しており、また、山上大介氏は公認会計士としての企業会計等に関する豊富な専門的知見と他社での社外監査役としての経験を有しており、その経歴等から両氏は社外監査役として当社の監査に有用な意見をいただけるものと判断しております。

また、社外取締役2名および社外監査役2名の計4名は、当社との人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はなく、東京証券取引所が定める当社の一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員として同取引所に届け出ております。

役員の報酬等

イ 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額 (千円)			対象となる役員 の員数 (名)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	133,767	89,180	32,700	11,886	6
監査役 (社外監査役を除く)	15,816	11,100	3,900	816	2
社外役員	18,300	18,300			4

□ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

八 使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

二 役員の報酬等の額の決定に関する方針

取締役および監査役の報酬(賞与含む)につきましては、株主総会の決議により、取締役全員および監査役全員のそれぞれの報酬総額の最高限度額を決定しており、この点で株主の監視が働く仕組みとなっております。各取締役の報酬額は、取締役会の決議により決定し、各監査役の報酬額は、監査役の協議により決定しております。取締役および監査役への退職慰労金は、株主総会の決議に基づき、当社の定める一定の基準に従い相当の範囲内において贈呈しております。

株式の保有状況

イ 保有に関する方針

当社の政策保有株式の保有方針は、営業上の取引関係の維持、強化、連携による企業価値向上を目的としております。営業担当執行役員は、四半期ごとにその状況を確認するものとし、取締役会に定期的に営業上の取引関係と株式保有によるリターンを勘案して保有方針どおりの対応が行われているかを報告することとしております。また、政策保有株式に係る議決権の行使については、議案が当該株式の価値向上に資するか否かを判断のうえ、営業上の取引関係と株式保有によるリターンを勘案して判断しております。

□ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 78銘柄

貸借対照表計上額の合計額 1,463,389千円

八 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
藍澤證券(株)	345,000	292,905	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
富士急行(株)	170,000	191,590	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
フォスター電機(株)	56,000	172,200	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)小森コーポレーション	60,000	95,880	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)AOI Pro.	100,000	94,700	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)ジャステック	91,000	88,452	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
日本管財(株)	31,100	87,670	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	145,000	82,635	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
凸版印刷(株)	76,000	80,028	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
昭和飛行機工業(株)	45,800	57,524	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
平和不動産(株)	26,000	44,720	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)アール・エス・シー	46,000	37,950	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)南都銀行	78,000	35,178	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)阿波銀行	35,000	26,600	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)三越伊勢丹ホールディングス	7,918	16,534	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
丸紅建材リース(株)	53,941	14,564	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
ラサ商事(株)	21,300	13,376	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
東日本旅客鉄道(株)	1,000	11,365	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
象印マホービン(株)	6,600	11,352	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
富士古河 E & C (株)	33,424	11,197	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
東京建物(株)	11,550	11,134	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)ヤクルト本社	1,525	10,554	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)大京	40,837	7,514	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)カプコン	2,868	6,905	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)三井住友フィナンシャルグループ	1,134	6,429	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)パロー	2,400	6,115	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)みずほフィナンシャルグループ	19,438	5,337	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)大和証券グループ本社	5,150	5,084	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
野村ホールディングス(株)	6,000	4,941	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
ピーピー・カストロール(株)	2,880	3,951	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
富士急行(株)	170,000	236,980	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
藍澤証券(株)	345,000	215,280	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
フォスター電機(株)	56,000	118,832	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)AOI Pro.	100,000	104,200	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
日本管財(株)	62,200	97,094	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)ジャステック	91,000	87,815	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)小森コーポレーション	60,000	80,640	印刷機器の技術指導をはじめ設備機器等における協力関係形成を目的として保有しております。

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
凸版印刷(株)	76,000	76,152	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	145,000	55,926	取引銀行との取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
昭和飛行機工業(株)	45,800	44,013	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
平和不動産(株)	26,000	35,438	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)南都銀行	78,000	26,442	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)アール・エス・シー	46,000	25,208	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)阿波銀行	35,000	22,015	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
象印マホービン(株)	6,600	12,507	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
丸紅建材リース(株)	56,677	10,825	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
東日本旅客鉄道(株)	1,000	10,135	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
ラサ商事(株)	21,300	10,011	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
富士古河E & C(株)	34,615	9,657	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)三越伊勢丹ホールディングス	8,499	9,204	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
フューチャーベンチャーキャピタル(株)	4,000	8,896	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)ヤクルト本社	1,592	8,662	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)カブコン	3,142	8,233	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
東京建物(株)	5,775	8,165	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)大京	43,207	7,345	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)パローホールディングス	2,400	7,212	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
コーエーテクモホールディングス(株)	2,108	4,163	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)三井住友フィナンシャルグループ	1,134	4,101	取引銀行との取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
ピーピー・カストロール(株)	2,880	3,663	営業上の取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)みずほフィナンシャルグループ	19,438	3,389	取引銀行との取引関係の維持、強化を目的として保有しております。

二 保有目的が純投資目的である投資株式
該当事項はありません。

会計監査の状況

会計監査業務を執行している公認会計士の氏名、所属する監査法人および継続関与年数は、次のとおりです。

(所属する監査法人名)	(公認会計士の氏名)	(継続関与年数)
和泉監査法人	代表社員 業務執行社員 松藤 雅明	7年
和泉監査法人	代表社員 業務執行社員 森 英之	2年

なお、上記の他に監査業務に関わる補助者として公認会計士2名がおります。

取締役会で決議できる株主総会決議事項

剰余金の配当および自己株式の取得等の決定機関

当社は、剰余金の配当については、経営環境の変化に対応した機動的な配当政策を図るため、また、自己株式の取得については、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、剰余金の配当および自己株式の取得等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役会の決議によって定めることができる旨を定款に定めております。

取締役の定数

当社の取締役は9名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	20,750		20,750	
連結子会社	3,000		3,000	
計	23,750		23,750	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社は監査公認会計士等に対する監査報酬を決定するにあたり、監査公認会計士等より提示される監査計画の内容をもとに、監査工数等の妥当性を勘案、協議し、会社法第399条に基づき、監査役会の同意を得た上で決定することとしています。

第5 【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成27年6月1日から平成28年5月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成27年6月1日から平成28年5月31日まで)の財務諸表について、和泉監査法人により監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。

具体的には、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、また、定期的に監査法人の主催するセミナーに参加する等により、的確に対応することができる体制を整備しております。

なお、当社は、ディスクロージャー及びIRの支援サービスを業としている会社であり、そのための組織として、ディスクロージャー研究一部、二部、IR企画部及び総合ディスクロージャー&IR研究所(平成28年7月1日付で新設分割した株式会社ディスクロージャー&IR総合研究所へ事業承継)を設けており、有価証券報告書等作成部署は、必要の都度情報交換を行う等連携を密にして、体制の充実に努めております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2 4,742,210	2 5,846,883
受取手形及び売掛金	3 2,609,504	2,777,331
有価証券	335,622	335,702
仕掛品	883,530	832,092
原材料及び貯蔵品	27,554	32,779
繰延税金資産	51,756	84,648
その他	81,366	115,591
貸倒引当金	1,038	2,765
流動資産合計	8,730,507	10,022,264
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,115,679	3,154,608
減価償却累計額	2,306,576	2,357,864
建物及び構築物(純額)	809,103	796,743
機械装置及び運搬具	1,383,338	1,322,413
減価償却累計額	1,122,806	1,141,457
機械装置及び運搬具(純額)	260,532	180,956
土地	3,154,695	3,154,695
その他	490,901	512,453
減価償却累計額	358,160	386,919
その他(純額)	132,741	125,533
有形固定資産合計	4,357,072	4,257,929
無形固定資産		
ソフトウェア	1,094,742	1,000,728
ソフトウェア仮勘定	38,248	35,423
その他	13,470	13,765
無形固定資産合計	1,146,461	1,049,917
投資その他の資産		
投資有価証券	1 2,072,008	1 1,863,972
退職給付に係る資産	439,092	-
繰延税金資産	-	308,856
その他	1 608,600	1 603,399
貸倒引当金	2,169	9,440
投資その他の資産合計	3,117,532	2,766,787
固定資産合計	8,621,066	8,074,634
資産合計	17,351,574	18,096,898

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2 903,230	2 1,095,693
1年内返済予定の長期借入金	10,476	5,736
未払法人税等	66,815	493,967
未払費用	1,096,778	1,209,149
役員賞与引当金	23,924	94,388
その他	886,709	859,747
流動負債合計	2,987,934	3,758,682
固定負債		
長期借入金	18,778	13,042
繰延税金負債	362,364	-
役員退職慰労引当金	79,727	89,202
退職給付に係る負債	43,303	1,543,834
固定負債合計	504,173	1,646,078
負債合計	3,492,107	5,404,760
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,049,318	2,049,318
資本剰余金	1,998,867	1,998,867
利益剰余金	9,815,751	10,341,040
自己株式	1,523,150	1,523,794
株主資本合計	12,340,787	12,865,433
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	577,667	435,265
退職給付に係る調整累計額	632,430	862,920
その他の包括利益累計額合計	1,210,097	427,655
非支配株主持分	308,581	254,360
純資産合計	13,859,466	12,692,137
負債純資産合計	17,351,574	18,096,898

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)
売上高	13,469,997	14,669,527
売上原価	8,340,860	8,560,330
売上総利益	5,129,137	6,109,196
販売費及び一般管理費		
販売促進費	202,153	191,206
運賃及び荷造費	182,434	176,424
役員報酬	147,780	169,548
給料及び手当	2,256,277	2,335,373
役員賞与引当金繰入額	23,924	94,388
退職給付費用	149,720	40,785
役員退職慰労引当金繰入額	5,898	12,703
福利厚生費	407,655	465,424
修繕維持費	41,319	52,604
租税公課	60,552	85,614
減価償却費	61,062	57,075
賃借料	114,011	114,048
その他	570,505	743,228
販売費及び一般管理費合計	4,223,295	4,538,424
営業利益	905,842	1,570,772
営業外収益		
受取利息	1,303	1,170
受取配当金	31,088	38,922
不動産賃貸料	14,923	14,390
受取手数料	8,062	12,345
投資事業組合運用益	53,099	65,803
その他	16,805	25,547
営業外収益合計	125,283	158,179
営業外費用		
支払利息	978	871
自己株式取得費用	3,267	-
その他	677	839
営業外費用合計	4,923	1,710
経常利益	1,026,202	1,727,241

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)
特別利益		
投資有価証券売却益	11,071	-
特別利益合計	11,071	-
特別損失		
固定資産売却損	-	1 100
固定資産除却損	2 13,976	2 10,377
投資有価証券売却損	-	171
施設利用権評価損	-	1,375
施設利用権解約損	-	1,800
社葬費用	-	19,577
特別損失合計	13,976	33,401
税金等調整前当期純利益	1,023,298	1,693,839
法人税、住民税及び事業税	321,698	600,812
法人税等調整額	92,741	63,028
法人税等合計	414,439	663,840
当期純利益	608,859	1,029,999
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に 帰属する当期純損失()	30,087	54,221
親会社株主に帰属する当期純利益	578,771	1,084,220

【連結包括利益計算書】

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)
当期純利益	608,859	1,029,999
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	312,062	142,401
退職給付に係る調整額	272,669	1,495,351
その他の包括利益合計	584,732	1,637,753
包括利益	1,193,591	607,754
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,163,503	553,533
非支配株主に係る包括利益	30,087	54,221

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月 31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,049,318	1,998,867	9,603,481	1,022,754	12,628,913
会計方針の変更による累積的影響額			86,598		86,598
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,049,318	1,998,867	9,516,882	1,022,754	12,542,314
当期変動額					
剰余金の配当			279,902		279,902
親会社株主に帰属する当期純利益			578,771		578,771
自己株式の取得				500,395	500,395
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	298,868	500,395	201,527
当期末残高	2,049,318	1,998,867	9,815,751	1,523,150	12,340,787

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	265,604	359,761	625,365	278,493	13,532,772
会計方針の変更による累積的影響額					86,598
会計方針の変更を反映した当期首残高	265,604	359,761	625,365	278,493	13,446,173
当期変動額					
剰余金の配当					279,902
親会社株主に帰属する当期純利益					578,771
自己株式の取得					500,395
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	312,062	272,669	584,732	30,087	614,820
当期変動額合計	312,062	272,669	584,732	30,087	413,293
当期末残高	577,667	632,430	1,210,097	308,581	13,859,466

当連結会計年度(自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,049,318	1,998,867	9,815,751	1,523,150	12,340,787
会計方針の変更による累積的影響額					
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,049,318	1,998,867	9,815,751	1,523,150	12,340,787
当期変動額					
剰余金の配当			558,930		558,930
親会社株主に帰属する当期純利益			1,084,220		1,084,220
自己株式の取得				643	643
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	525,289	643	524,645
当期末残高	2,049,318	1,998,867	10,341,040	1,523,794	12,865,433

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	577,667	632,430	1,210,097	308,581	13,859,466
会計方針の変更による累積的影響額					
会計方針の変更を反映した当期首残高	577,667	632,430	1,210,097	308,581	13,859,466
当期変動額					
剰余金の配当					558,930
親会社株主に帰属する当期純利益					1,084,220
自己株式の取得					643
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	142,401	1,495,351	1,637,753	54,221	1,691,974
当期変動額合計	142,401	1,495,351	1,637,753	54,221	1,167,329
当期末残高	435,265	862,920	427,655	254,360	12,692,137

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,023,298	1,693,839
減価償却費	527,422	553,283
引当金の増減額(は減少)	683	88,937
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	81,749	238,856
受取利息及び受取配当金	32,392	40,092
支払利息	978	871
固定資産除却損	13,976	10,377
売上債権の増減額(は増加)	30,219	175,098
たな卸資産の増減額(は増加)	325,233	46,212
仕入債務の増減額(は減少)	87,245	192,463
投資事業組合運用損益(は益)	53,099	65,803
その他	84,899	76,695
小計	1,696,477	2,142,829
利息及び配当金の受取額	32,392	40,092
利息の支払額	655	544
法人税等の支払額	644,692	204,725
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,083,522	1,977,652
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	203,859	88,347
無形固定資産の取得による支出	482,831	270,127
投資有価証券の取得による支出	113,468	5,238
投資有価証券の売却による収入	35,646	6
投資事業組合への出資による支出	-	80,000
投資事業組合からの分配による収入	139,044	129,745
その他	2,886	1,642
投資活動によるキャッシュ・フロー	628,355	312,319
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	10,476	10,476
配当金の支払額	279,304	549,462
自己株式の取得による支出	500,395	643
財務活動によるキャッシュ・フロー	790,176	560,581
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	335,009	1,104,752
現金及び現金同等物の期首残高	5,408,343	5,073,333
現金及び現金同等物の期末残高	5,073,333	6,178,085

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数

2社

連結子会社の名称

株式会社タスク

株式会社スリー・シー・コンサルティング

(2) 主要な非連結子会社の名称

ディスクロージャー・イノベーション株式会社

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した非連結子会社及び関連会社数

持分法を適用した非連結子会社及び関連会社はありません。

(2) 持分法を適用しない主要な非連結子会社の名称

ディスクロージャー・イノベーション株式会社

(持分法を適用しない理由)

持分法非適用会社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度の末日と連結決算日は一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

なお、投資事業有限責任組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

イ 原材料

移動平均法

ロ 仕掛品

個別法

ハ 貯蔵品

最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

法人税法に規定する方法と同一の基準による定率法

ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備は除く)並びに平成28年4月1日以降取得した建物附属設備及び構築物については、法人税法に規定する方法と同一の基準による定額法によっております。

主な耐用年数

建物及び構築物 15～50年

機械装置及び運搬具 10年

無形固定資産

イ ソフトウェア(自社利用分)

社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法

ロ その他

法人税法に規定する方法と同一の基準による定額法

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支給に備えて内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜き方式によっております。

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。）、及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を当連結会計年度から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、当連結会計年度の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する連結会計年度の連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、当期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前連結会計年度については連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58 - 2項（4）、連結会計基準第44 - 5項（4）及び事業分離等会計基準第57 - 4項（4）に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首時点から将来にわたって適用しております。

当連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載する方法に変更しております。

なお、当連結会計年度において、連結財務諸表及び1株当たり情報に与える影響額はありません。

(減価償却方法の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当連結会計年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響額は軽微であります。

(未適用の会計基準等)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)

(1) 概要

繰延税金資産の回収可能性に関する取扱いについて、監査委員会報告第66号「繰延税金資産の回収可能性の判断に関する監査上の取扱い」の枠組み、すなわち企業を5つに分類し、当該分類に応じて繰延税金資産の計上額を見積る枠組みを基本的に踏襲した上で、以下の取扱いについて必要な見直しが行われております。

(分類1) から (分類5) に係る分類の要件をいずれも満たさない企業の取扱い

(分類2) 及び (分類3) に係る分類の要件

(分類2) に該当する企業におけるスケジューリング不能な将来減算一時差異に関する取扱い

(分類3) に該当する企業における将来の一時差異等加減算前課税所得の合理的な見積可能期間に関する取扱い

(分類4) に係る分類の要件を満たす企業が (分類2) 又は (分類3) に該当する場合の取扱い

(2) 適用予定日

平成29年5月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
投資有価証券(株式)	203,328千円	203,328千円
投資その他の資産のその他 (関係会社出資金)	5,000千円	5,000千円

2 担保資産及び担保付債務

(1) 担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
現金及び預金	4,500千円	4,500千円

(2) 上記に対応する債務

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
買掛金	9,134千円	9,241千円

3 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれておりません。

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
受取手形	3,668千円	千円

(連結損益計算書関係)

1 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成26年6月1日 至平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自平成27年6月1日 至平成28年5月31日)
機械装置及び運搬具	千円	100千円

2 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成26年6月1日 至平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自平成27年6月1日 至平成28年5月31日)
機械装置及び運搬具	13,474千円	8,947千円
その他(工具、器具及び備品)	502千円	1,430千円
計	13,976千円	10,377千円

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	452,165千円	226,586千円
組替調整額	11,071千円	170千円
税効果調整前	441,093千円	226,415千円
税効果額	129,031千円	84,013千円
その他有価証券評価差額金	312,062千円	142,401千円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	474,788千円	1,998,478千円
組替調整額	99,052千円	180,001千円
税効果調整前	375,736千円	2,178,479千円
税効果額	103,066千円	683,127千円
退職給付に係る調整額	272,669千円	1,495,351千円
その他の包括利益合計	584,732千円	1,637,753千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	12,936,793			12,936,793
合計	12,936,793			12,936,793
自己株式				
普通株式(注)	1,274,091	483,960		1,758,051
合計	1,274,091	483,960		1,758,051

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加483,960株は、市場買付による自己株式の取得483,500株および単元未満株式の買取りによる増加460株であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年7月2日 取締役会	普通株式	163,277	14.00	平成26年5月31日	平成26年8月4日
平成26年12月26日 取締役会	普通株式	116,624	10.00	平成26年11月30日	平成27年1月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年7月1日 取締役会	普通株式	利益剰余金	279,468	25.00	平成27年5月31日	平成27年7月31日

当連結会計年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数（株）	当連結会計年度増加 株式数（株）	当連結会計年度減少 株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	12,936,793			12,936,793
合計	12,936,793			12,936,793
自己株式				
普通株式(注)	1,758,051	495		1,758,546
合計	1,758,051	495		1,758,546

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加495株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年7月1日 取締役会	普通株式	279,468	25.00	平成27年5月31日	平成27年7月31日
平成27年12月28日 取締役会	普通株式	279,462	25.00	平成27年11月30日	平成28年1月25日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年7月1日 取締役会	普通株式	利益剰余金	279,456	25.00	平成28年5月31日	平成28年8月5日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
現金及び預金勘定	4,742,210千円	5,846,883千円
担保提供定期預金	4,500千円	4,500千円
有価証券勘定のうち マネー・マネジメント・ファンド	335,622千円	335,702千円
現金及び現金同等物	5,073,333千円	6,178,085千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い金融資産による運用に限定しております。短期及び長期的な運転資金は、銀行借入により調達する方針です。デリバティブ取引は、元本保証の安全な運用を除き、ヘッジ目的以外には行わない方針です。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの債権管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、回収遅延債権は、毎月、各担当執行役員へ報告され、督促など早期回収のための取り組みが行われております。また、取引先の信用状況を定期的に把握し、財務状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減に努めております。

有価証券は、主にマネー・マネジメント・ファンドであり、投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式や投資事業有限責任組合への出資であります。

株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況を把握し、取締役会に報告されております。

営業債務である買掛金及び未払費用は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。

また、営業債務は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、必要に応じて資金繰計画を作成する等の方法により管理しております。

借入金は、主に設備投資等に必要な資金の調達を目的としたものであり、返済期限は最長で平成33年4月であります。すべては固定金利での借入金であるため、金利の変動リスクに晒されておられません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表に含めておりません（注2）をご参照ください。）。

前連結会計年度(平成27年5月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	4,742,210	4,742,210	
(2) 受取手形及び売掛金	2,609,504	2,609,504	
(3) 有価証券及び投資有価証券 其他有価証券	1,930,049	1,930,049	
資産計	9,281,764	9,281,764	
(1) 買掛金	903,230	903,230	
(2) 1年内返済予定の長期借入金	10,476	10,476	
(3) 未払費用	1,096,778	1,096,778	
(4) 長期借入金	18,778	18,778	
負債計	2,029,263	2,029,263	

当連結会計年度(平成28年5月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	5,846,883	5,846,883	
(2) 受取手形及び売掛金	2,777,331	2,777,331	
(3) 有価証券及び投資有価証券 其他有価証券	1,737,729	1,737,729	
資産計	10,361,944	10,361,944	
(1) 買掛金	1,095,693	1,095,693	
(2) 1年内返済予定の長期借入金	5,736	5,736	
(3) 未払費用	1,209,149	1,209,149	
(4) 長期借入金	13,042	13,042	
負債計	2,323,621	2,323,621	

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、並びに(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、取引所の価格または取引金融機関から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項(有価証券関係)をご参照ください。

負債

(1) 買掛金、並びに(3)未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 1年内返済予定の長期借入金、並びに(4)長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定していますが、その時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成27年5月31日	平成28年5月31日
その他有価証券		
非上場株式	265,690	265,690
非上場社債	5,000	5,000
投資事業有限責任組合への出資	206,891	191,254
合計	477,581	461,945

非上場株式及び非上場社債については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「資産(3)有価証券及び投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

投資事業有限責任組合への出資については、組合財産が非上場株式など時価を把握することが極めて困難と認められるもので構成されていることから、時価開示の対象としておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度(平成27年5月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	4,742,210			
受取手形	61,263			
売掛金	2,548,240			
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券				
(1) 社債			5,000	
(2) その他				
合計	7,356,714		5,000	

当連結会計年度(平成28年5月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	5,846,883			
受取手形	60,500			
売掛金	2,716,831			
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券				
(1) 社債			5,000	
(2) その他				
合計	8,624,214		5,000	

(注4) 長期借入金の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度(平成27年5月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	10,476	5,736	3,336	3,336	3,336	3,034

当連結会計年度(平成28年5月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	5,736	3,336	3,336	3,336	3,034	

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成27年5月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	1,558,862	721,282	837,580
その他			
小計	1,558,862	721,282	837,580
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	35,564	50,728	15,164
その他	335,622	335,622	
小計	371,186	386,351	15,164
合計	1,930,049	1,107,633	822,415

当連結会計年度(平成28年5月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	1,253,435	599,960	653,474
その他			
小計	1,253,435	599,960	653,474
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	148,591	177,123	28,531
その他	335,702	335,702	
小計	484,294	512,825	28,531
合計	1,737,729	1,112,786	624,943

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)

区分	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
株式	10,225	6,243	
その他	25,421	4,828	
合計	35,646	11,071	

当連結会計年度(自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)

区分	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
株式	6		171
その他			
合計	6		171

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度及び当連結会計年度においては、減損処理を行っておりません。

なお、時価のある有価証券の減損処理にあたりましては、連結会計年度末における時価が、取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30%以上50%未満下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。また、非上場株式の減損処理にあたりましては、当該株式の発行会社の財政状態の悪化により実質価額が著しく下落した場合には、回復可能性を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

当社及び連結子会社は、デリバティブ取引を全く利用しておりませんので該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度を採用しております。

確定給付企業年金制度（すべて積立型制度であります。）では、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給しております。退職一時金制度（すべて非積立型制度であります。）では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。

また、当社が加入しておりました複数事業主制度による厚生年金基金が解散したことに伴い、退職金規程を改訂し、平成28年4月1日より適用しております。これにより、未認識過去勤務費用が574,358千円発生しており、一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、発生した当連結会計年度から費用処理しております。

なお、一部の連結子会社の退職一時金制度については簡便法を採用しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
退職給付債務の期首残高	2,561,296		2,721,787	
会計方針の変更による累積的影響額	134,554			
会計方針の変更を反映した期首残高	2,695,850		2,721,787	
勤務費用	226,135		212,786	
利息費用	40,438		40,827	
数理計算上の差異の発生額	209,560		1,251,074	
過去勤務費用の発生額			574,358	
退職給付の支払額	31,076		48,497	
退職給付債務の期末残高	2,721,787		4,752,336	

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
年金資産の期首残高	2,672,617		3,160,880	
期待運用収益	53,452		63,218	
数理計算上の差異の発生額	265,228		173,045	
事業主からの拠出額	200,658		251,189	
退職給付の支払額	31,076		48,497	
年金資産の期末残高	3,160,880		3,253,744	

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	38,464		43,303	
退職給付費用	8,045		6,952	
退職給付の支払額	3,206		5,013	
退職給付に係る負債の期末残高	43,303		45,242	

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
積立型制度の退職給付債務	2,721,787	4,752,336
年金資産	3,160,880	3,253,744
	439,092	1,498,591
非積立型制度の退職給付債務	43,303	45,242
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	395,789	1,543,834
退職給付に係る負債	43,303	1,543,834
退職給付に係る資産	439,092	
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	395,789	1,543,834

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
勤務費用	226,135	212,786
利息費用	40,438	40,827
期待運用収益	53,452	63,218
数理計算上の差異の費用処理額	99,052	199,146
過去勤務費用の費用処理額		19,145
簡便法で計算した退職給付費用	8,045	6,952
その他	1,316	1,222
確定給付制度に係る退職給付費用	123,431	18,569

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
過去勤務費用		555,213
数理計算上の差異	375,736	1,623,266
合計	375,736	2,178,479

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	(千円)	
	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
未認識過去勤務費用		555,213
未認識数理計算上の差異	934,719	688,547
合計	934,719	1,243,760

(8) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
債券	29%	29%
株式	34%	27%
保険資産(一般勘定)	26%	28%
その他	11%	16%
合計	100%	100%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎(加重平均で表わしております。)

	前連結会計年度 (自平成26年6月1日 至平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自平成27年6月1日 至平成28年5月31日)
割引率	1.5%	0.3%
長期期待運用収益率	2.0%	2.0%

3. 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は前連結会計年度161,726千円であります。

要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は以下の通りであります。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況

	(千円)	
	前連結会計年度 平成26年3月31日現在	当連結会計年度 平成27年3月31日現在
年金資産の額	93,722,070	
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	110,494,298	
差引額	16,772,228	

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合

前連結会計年度 5.21%(自平成25年4月1日至平成26年3月31日)

当連結会計年度 % (自平成26年4月1日至平成27年3月31日)

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高(前連結会計年度25,038,994千円)であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は期間20年の元利均等償却です。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しておりません。

また、当社が加入していた当厚生年金基金は平成28年1月22日付で厚生労働大臣より解散認可を受けております。当基金の解散による追加負担額は発生しない見込みであります。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
繰延税金資産		
退職給付に係る負債	15,312千円	474,518千円
役員退職慰労引当金	25,783千円	27,313千円
未払事業税	7,262千円	38,055千円
未払社会保険料	27,789千円	31,135千円
投資有価証券評価損	49,393千円	35,751千円
施設利用権評価損	10,448千円	10,313千円
連結子会社の繰越欠損金	千円	56,702千円
その他	39,715千円	35,388千円
繰延税金資産小計	175,705千円	709,178千円
評価性引当額	68,198千円	123,574千円
繰延税金資産合計	107,506千円	585,603千円
繰延税金負債		
退職給付に係る資産	142,002千円	千円
その他有価証券評価差額金	276,112千円	192,098千円
繰延税金負債合計	418,114千円	192,098千円
繰延税金資産又は繰延税金負債 純額	310,607千円	393,505千円

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産及び繰延税金負債の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	51,756千円	84,648千円
固定資産 - 繰延税金資産	千円	308,856千円
固定負債 - 繰延税金負債	362,364千円	千円

(表示方法の変更)

前連結会計年度において、繰延税金資産の「その他」に含めていた「未払社会保険料」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の注記の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度において、繰延税金資産の「その他」に表示していた67,505千円は、「未払社会保険料」27,789千円、「その他」39,715千円として組み替えております。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
法定実効税率	35.6%	33.1%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.5%	1.1%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.6%	0.2%
住民税均等割	1.3%	0.7%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	2.5%	0.6%
所得拡大促進税制特別税額控除	%	1.2%
評価性引当額の増減	0.3%	3.5%
役員賞与引当金繰入額	0.7%	1.8%
その他	0.2%	0.4%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	40.5%	39.2%

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」が平成28年3月29日に国会で成立したことに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算（ただし、平成28年6月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前連結会計年度の32.3%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成28年6月1日から平成30年5月31日までのものは30.9%、平成30年6月1日以降のものについては30.6%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が22,968千円減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が12,366千円、その他有価証券評価差額金が10,790千円、退職給付に係る調整累計額が21,392千円それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当社グループは、事務所等の不動産賃貸借契約に基づく退去時における原状回復義務を資産除去債務として認識しておりますが、当該債務の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

なお、当連結会計年度末における資産除去債務は、負債計上に代えて、不動産賃貸借契約に関連する敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、当連結会計年度の負担に属する金額を費用に計上する方法によっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)

当社グループは、ディスクロージャー関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)

当社グループは、ディスクロージャー関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

当社グループは、ディスクロージャー関連事業に係る単一の製品・サービスの外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

当社グループは、ディスクロージャー関連事業に係る単一の製品・サービスの外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (千円)	事業の内容	議決権等の 所有(被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
子会社	ディスクロージャー・イノベーション株式会社	東京都豊島区	50,000	ネットワーク管理、文書の電子化等に係るソフトウェアの開発と販売	(所有) 直接100	ソフトウェアの開発・保守 役員の兼任	(注)2 ソフトウェアの購入	(注)1 288,276	未払金	(注)1 15,456
							(注)2 ソフトウェアの保守	(注)1 226,703	未払費用	(注)1 11,285

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. ソフトウェアの購入及び保守については、ディスクロージャー・イノベーション株式会社から提示された価格と、他の外注先との取引価格を参考にしてその都度交渉の上、決定しております。

当連結会計年度(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (千円)	事業の内容	議決権等の 所有(被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
子会社	ディスクロージャー・イノベーション株式会社	東京都豊島区	50,000	ネットワーク管理、文書の電子化等に係るソフトウェアの開発と販売	(所有) 直接100	ソフトウェアの開発・保守 役員の兼任	(注)2 ソフトウェアの購入	(注)1 170,732	未払金	(注)1 17,833
							(注)2 ソフトウェアの保守	(注)1 343,640	未払費用	(注)1 19,910

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. ソフトウェアの購入及び保守については、ディスクロージャー・イノベーション株式会社から提示された価格と、他の外注先との取引価格を参考にしてその都度交渉の上、決定しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)
1株当たり純資産額	1,212.20円	1,112.68円
1株当たり当期純利益金額	50.15円	96.99円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	578,771	1,084,220
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	578,771	1,084,220
普通株式の期中平均株式数(株)	11,541,572	11,178,448

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度末 (平成27年 5月31日)	当連結会計年度末 (平成28年 5月31日)
純資産の部の合計額(千円)	13,859,466	12,692,137
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	308,581	254,360
(うち非支配株主持分(千円))	(308,581)	(254,360)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	13,550,885	12,437,777
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	11,178,742	11,178,247

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金				
1年以内に返済予定の長期借入金	10,476	5,736	1.9	
1年以内に返済予定のリース債務				
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	18,778	13,042	2.0	平成33年4月28日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)				
その他有利子負債				
合計	29,254	18,778		

(注) 1. 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後の返済予定額は以下の通りです。

区分	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)
長期借入金	3,336	3,336	3,336	3,034

【資産除去債務明細表】

明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	5,361,130	8,461,547	10,665,043	14,669,527
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額 (千円)	1,434,204	1,436,988	1,173,263	1,693,839
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益金額 (千円)	954,249	944,527	747,435	1,084,220
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	85.36	84.49	66.86	96.99

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり四半期純損失 金額() (円)	85.36	0.87	17.63	30.13

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年 5月31日)	当事業年度 (平成28年 5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2 4,033,763	2 5,141,845
受取手形	3 47,981	45,258
電子記録債権	13,281	15,241
売掛金	1 2,534,905	1 2,705,061
有価証券	335,622	335,702
原材料	7,415	12,349
仕掛品	878,149	829,082
貯蔵品	20,138	20,430
繰延税金資産	48,984	76,671
その他	1 96,638	1 135,885
貸倒引当金	1,038	2,765
流動資産合計	8,015,844	9,314,764
固定資産		
有形固定資産		
建物	799,097	786,279
構築物	2,587	2,232
機械及び装置	260,532	180,956
車両運搬具	0	0
工具、器具及び備品	124,086	118,021
土地	3,154,695	3,154,695
有形固定資産合計	4,340,999	4,242,186
無形固定資産		
ソフトウェア	1,021,158	931,210
ソフトウェア仮勘定	34,421	26,713
電話加入権	11,511	11,511
その他	1,408	968
無形固定資産合計	1,068,499	970,403
投資その他の資産		
投資有価証券	1,867,680	1,659,643
関係会社株式	302,023	302,023
長期前払費用	8,645	11,399
生命保険積立金	427,191	423,208
差入保証金	107,820	99,637
その他	31,363	32,965
貸倒引当金	2,169	9,440
投資その他の資産合計	2,742,554	2,519,437
固定資産合計	8,152,053	7,732,026
資産合計	16,167,898	17,046,791

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年 5月31日)	当事業年度 (平成28年 5月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1, 2 884,463	1, 2 1,075,492
未払金	1 21,786	1 31,233
未払費用	1 1,057,438	1 1,158,486
未払法人税等	56,300	440,120
未払消費税等	241,002	159,082
預り金	71,635	48,226
役員賞与引当金	19,430	36,600
その他	508,363	579,205
流動負債合計	2,860,419	3,528,447
固定負債		
繰延税金負債	61,360	72,989
退職給付引当金	495,626	254,831
役員退職慰労引当金	79,727	89,202
固定負債合計	636,714	417,023
負債合計	3,497,134	3,945,471
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,049,318	2,049,318
資本剰余金		
資本準備金	1,998,315	1,998,315
その他資本剰余金	552	552
資本剰余金合計	1,998,867	1,998,867
利益剰余金		
利益準備金	174,905	174,905
その他利益剰余金		
別途積立金	8,600,000	8,600,000
繰越利益剰余金	793,155	1,366,756
その他利益剰余金合計	9,393,155	9,966,756
利益剰余金合計	9,568,061	10,141,662
自己株式	1,523,150	1,523,794
株主資本合計	12,093,097	12,666,054
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	577,667	435,265
評価・換算差額等合計	577,667	435,265
純資産合計	12,670,764	13,101,319
負債純資産合計	16,167,898	17,046,791

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)	当事業年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)
売上高	1 13,326,196	1 14,543,596
売上原価	1 8,461,778	1 8,815,520
売上総利益	4,864,417	5,728,075
販売費及び一般管理費	1, 2 4,047,314	1, 2 4,098,666
営業利益	817,103	1,629,408
営業外収益		
受取利息	1,165	1,036
受取配当金	31,088	38,922
不動産賃貸料	1 14,923	1 14,390
受取手数料	1 8,062	1 12,345
投資事業組合運用益	53,099	65,803
その他	1 16,177	1 18,691
営業外収益合計	124,517	151,190
営業外費用		
支払利息	-	82
自己株式取得費用	3,267	-
その他	322	839
営業外費用合計	3,589	922
経常利益	938,031	1,779,676
特別利益		
投資有価証券売却益	11,071	-
特別利益合計	11,071	-
特別損失		
固定資産売却損	-	100
固定資産除却損	13,976	10,377
投資有価証券売却損	-	171
施設利用権評価損	-	1,375
施設利用権解約損	-	1,800
社葬費用	-	19,577
特別損失合計	13,976	33,401
税引前当期純利益	935,126	1,746,274
法人税、住民税及び事業税	298,269	545,788
法人税等調整額	92,708	67,954
法人税等合計	390,978	613,743
当期純利益	544,148	1,132,531

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)		当事業年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費	1	1,281,227	15.5	1,508,261	17.0
労務費		2,664,490	32.2	2,452,101	27.6
外注加工費		2,922,085	35.3	3,457,739	38.9
経費		1,409,848	17.0	1,467,027	16.5
当期総製造費用		8,277,651	100.0	8,885,128	100.0
期首仕掛品たな卸高		1,199,309		878,149	
合計		9,476,961		9,763,278	
期末仕掛品たな卸高		878,149		829,082	
他勘定振替高	2	137,032		118,675	
当期製品製造原価		8,461,778		8,815,520	

(注) 1 主な内訳は、次のとおりであります。

科目	前事業年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)		当事業年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)	
	金額(千円)		金額(千円)	
減価償却費	448,469		473,060	
賃借料	121,287		89,969	
水道光熱費	57,397		48,609	
修繕維持費	475,555		545,810	
運賃及び荷造費	87,180		98,242	

2 他勘定振替高の内容は、販売費及び一般管理費に振り替えたものであり、次のとおりであります。

科目	前事業年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)		当事業年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)	
	金額(千円)		金額(千円)	
販売促進費	119,501		99,643	
事務費	10,436		10,583	
広告宣伝費	3,254		3,497	
その他	3,839		4,951	
計	137,032		118,675	

(原価計算の方法)

前事業年度及び当事業年度の当社の原価計算は、実際個別原価計算によっております。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	
						別途積立金	繰越利益 剰余金
当期首残高	2,049,318	1,998,315	552	1,998,867	174,905	8,250,000	965,508
会計方針の変更による 累積的影響額							86,598
会計方針の変更を反映し た当期首残高	2,049,318	1,998,315	552	1,998,867	174,905	8,250,000	878,909
当期変動額							
剰余金の配当							279,902
当期純利益							544,148
別途積立金の積立						350,000	350,000
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	-	-	350,000	85,754
当期末残高	2,049,318	1,998,315	552	1,998,867	174,905	8,600,000	793,155

	株主資本			評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金合計					
当期首残高	9,390,414	1,022,754	12,415,846	265,604	265,604	12,681,450
会計方針の変更による 累積的影響額	86,598		86,598			86,598
会計方針の変更を反映し た当期首残高	9,303,815	1,022,754	12,329,247	265,604	265,604	12,594,851
当期変動額						
剰余金の配当	279,902		279,902			279,902
当期純利益	544,148		544,148			544,148
別途積立金の積立	-		-			-
自己株式の取得		500,395	500,395			500,395
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				312,062	312,062	312,062
当期変動額合計	264,245	500,395	236,149	312,062	312,062	75,912
当期末残高	9,568,061	1,523,150	12,093,097	577,667	577,667	12,670,764

当事業年度(自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	
						別途積立金	繰越利益 剰余金
当期首残高	2,049,318	1,998,315	552	1,998,867	174,905	8,600,000	793,155
会計方針の変更による 累積的影響額							
会計方針の変更を反映し た当期首残高	2,049,318	1,998,315	552	1,998,867	174,905	8,600,000	793,155
当期変動額							
剰余金の配当							558,930
当期純利益							1,132,531
別途積立金の積立							
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	573,600
当期末残高	2,049,318	1,998,315	552	1,998,867	174,905	8,600,000	1,366,756

	株主資本			評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金合計					
当期首残高	9,568,061	1,523,150	12,093,097	577,667	577,667	12,670,764
会計方針の変更による 累積的影響額	-		-			-
会計方針の変更を反映し た当期首残高	9,568,061	1,523,150	12,093,097	577,667	577,667	12,670,764
当期変動額						
剰余金の配当	558,930		558,930			558,930
当期純利益	1,132,531		1,132,531			1,132,531
別途積立金の積立	-		-			-
自己株式の取得		643	643			643
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				142,401	142,401	142,401
当期変動額合計	573,600	643	572,957	142,401	142,401	430,555
当期末残高	10,141,662	1,523,794	12,666,054	435,265	435,265	13,101,319

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

なお、投資事業有限責任組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

原材料

移動平均法

仕掛品

個別法

貯蔵品

最終仕入原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

法人税法に規定する方法と同一の基準による定率法

ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備は除く)並びに平成28年4月1日以降取得した建物附属設備及び構築物については、法人税法に規定する方法と同一の基準による定額法によっております。

主な耐用年数

建物 15～50年

機械及び装置 10年

(2) 無形固定資産

ソフトウェア(自社利用分)

社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法

その他

法人税法に規定する方法と同一の基準による定額法

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法は以下のとおりです。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日次事業年度から費用処理しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支給に備えて内規に基づく期末要支給額を計上しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜き方式によっております。

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を、当事業年度から適用し、取得関連費用を発生した事業年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、当事業年度の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する事業年度の財務諸表に反映させる方法に変更いたします。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58 - 2項（4）及び事業分離等会計基準第57 - 4項（4）に定める経過的な取扱いに従っており、当事業年度の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当事業年度において、財務諸表及び1株当たり情報に与える影響額はありません。

(減価償却方法の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当事業年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響額は軽微であります。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する資産及び負債

関係会社に対する金銭債権又は金銭債務の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成27年5月31日)	当事業年度 (平成28年5月31日)
金銭債権	23,449千円	47,312千円
金銭債務	61,120千円	132,636千円

2 担保資産及び担保付債務は、次のとおりであります。

(1) 担保に供している資産

	前事業年度 (平成27年5月31日)	当事業年度 (平成28年5月31日)
現金及び預金	4,500千円	4,500千円

(2) 上記に対応する債務

	前事業年度 (平成27年5月31日)	当事業年度 (平成28年5月31日)
買掛金	9,134千円	9,241千円

3 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、前事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成27年5月31日)	当事業年度 (平成28年5月31日)
受取手形	3,668千円	千円

(損益計算書関係)

1 関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引の取引高は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当事業年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
営業取引による取引高		
売上高	5,031千円	2,360千円
仕入高	874,965千円	1,480,645千円
営業取引以外の取引による取引高	375,647千円	218,301千円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当事業年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
給料及び手当	2,241,063千円	2,300,232千円
役員賞与引当金繰入額	19,430千円	36,600千円
退職給付費用	148,186千円	38,559千円
役員退職慰労引当金繰入額	5,898千円	12,703千円
福利厚生費	395,612千円	448,104千円
減価償却費	59,396千円	55,326千円

おおよその割合

販売費	63%	62%
一般管理費	37%	38%

(表示方法の変更)

「福利厚生費」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より主要な費目として表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度におきましても主要な費目として表示しております。

(有価証券関係)

子会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (平成27年5月31日)	当事業年度 (平成28年5月31日)
子会社株式	302,023	302,023
計	302,023	302,023

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成27年5月31日)	当事業年度 (平成28年5月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	160,285千円	78,029千円
役員退職慰労引当金	25,783千円	27,313千円
未払事業税	6,189千円	33,245千円
未払社会保険料	26,275千円	28,680千円
投資有価証券評価損	49,393千円	35,751千円
施設利用権評価損	10,448千円	10,313千円
その他	35,448千円	32,522千円
繰延税金資産小計	313,824千円	245,857千円
評価性引当額	50,089千円	50,076千円
繰延税金資産合計	263,735千円	195,780千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	276,112千円	192,098千円
繰延税金負債合計	276,112千円	192,098千円
繰延税金資産又は繰延税金負債 純額	12,376千円	3,682千円

(表示方法の変更)

前事業年度において、繰延税金資産の「その他」に含めていた「未払社会保険料」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の注記の組替えを行っております。

この結果、前事業年度において、繰延税金資産の「その他」に表示していた61,724千円は、「未払社会保険料」26,275千円、「その他」35,448千円として組み替えております。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成27年5月31日)	当事業年度 (平成28年5月31日)
法定実効税率	35.6%	33.1%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.7%	1.1%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.7%	0.2%
住民税均等割	1.3%	0.7%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	2.8%	0.6%
所得拡大促進税制特別税額控除	%	0.9%
評価性引当額の増減	0.2%	0.1%
役員賞与引当金繰入額	0.7%	0.7%
その他	0.1%	0.0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	41.8%	35.1%

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」が平成28年3月29日に国会で成立したことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算（ただし、平成28年6月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前事業年度の32.3%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成28年6月1日から平成30年5月31日までのものは30.9%、平成30年6月1日以降のものについては30.6%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が1,465千円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が12,255千円、その他有価証券評価差額金が10,790千円それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	799,097	38,068		50,886	786,279	2,316,366
	構築物	2,587			354	2,232	37,204
	機械及び装置	260,532	1,203	9,095	71,684	180,956	1,139,257
	車両運搬具	0				0	2,199
	工具、器具及び備品	124,086	46,728	530	52,262	118,021	375,303
	土地	3,154,695				3,154,695	
	計	4,340,999	86,000	9,625	175,188	4,242,186	3,870,331
無形固定資産	ソフトウェア	1,021,158	262,810		352,758	931,210	
	電話加入権	11,511				11,511	
	ソフトウェア仮勘定	34,421	104,725	112,433		26,713	
	その他	1,408			439	968	
	計	1,068,499	367,535	112,433	353,198	970,403	

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

ソフトウェア 本社 開示書類作成支援ツール 158,411千円

ソフトウェア仮勘定 本社 開示書類作成支援ツール 98,775千円

2. ソフトウェア仮勘定の当期減少額のうち112,218千円は、ソフトウェアへの振替によるものであります。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	3,207	10,525	1,527	12,205
役員賞与引当金	19,430	36,600	19,430	36,600
役員退職慰労引当金	79,727	12,703	3,227	89,202

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	6月1日から5月31日まで
定時株主総会	8月中
基準日	5月31日
剰余金の配当の基準日	11月30日、5月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増し	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取扱場所	
株主名簿管理人	
取次所	
買取・買増手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
買増受付停止期間	当社基準日の10営業日前から基準日に至るまで
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 http://www.takara-print.co.jp/
株主に対する特典	毎年5月31日現在における所有株数および所有期間に応じて次のとおり実施いたします。 1) 100株以上2,000株未満・3年未満所有 1,500円コースの選べるギフトを贈呈 2) 2,000株以上・3年未満所有 3,000円コースの選べるギフトを贈呈 3) 100株以上2,000株未満・3年以上継続して所有 2,000円コースの選べるギフトを贈呈 4) 2,000株以上・3年以上継続して所有 3,500円コースの選べるギフトを贈呈 優待品にかえて寄付を選択された場合には、当社より環境保全や社会福祉支援等の社会貢献活動団体へ寄付させていただいております。

(注) 当会社の株主は、定款の定めによりその有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (4) 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第78期(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)平成27年8月21日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度 第78期(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)平成27年8月21日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

第79期第1四半期報告書(自 平成27年6月1日 至 平成27年8月31日)平成27年10月6日関東財務局長に提出

第79期第2四半期報告書(自 平成27年9月1日 至 平成27年11月30日)平成28年1月7日関東財務局長に提出

第79期第3四半期報告書(自 平成27年12月1日 至 平成28年2月29日)平成28年4月6日関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成28年 8月18日

宝印刷株式会社
取締役会 御中

和泉監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 松 藤 雅 明 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 森 英 之 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている宝印刷株式会社の平成27年6月1日から平成28年5月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、宝印刷株式会社及び連結子会社の平成28年5月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、宝印刷株式会社の平成28年5月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、宝印刷株式会社が平成28年5月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1．上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成28年 8月18日

宝印刷株式会社
取締役会 御中

和泉監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 松 藤 雅 明 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 森 英 之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている宝印刷株式会社の平成27年6月1日から平成28年5月31日までの第79期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、宝印刷株式会社の平成28年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。